

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七二〇	享保5	12/6~	竹本座	心中天の網島	※角書「紙屋治兵衛／きいの国や小はる」。 ※この興行外題に関しては次の正本による。竹本筑後掾（奥書）、山本版七行本。作者近松門左衛門（内題下）。 ※実説は不明。『翁草』に逸話、『撰陽奇観』享保7年条に、「十月十四日夜紙治・小春心中」として書置などを載せ、また、墓碑も残るが、いずれも信じられない（『義太夫年表 近世篇』）。	
一七七六	安永5	5/5~	京 四条通北側西 大芝居 都万太夫座	天網島	上（口律、中浜、奥三好）、中（口江、奥駒）、下（口浜、切音）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀伊国や小はる」。	きの国や小はる（文吾郎）、粉や孫右衛門（東作）、かみや治兵衛（文三）、治兵衛女ほうおさん（文吾郎）。
一七七八	安永7	4/21~	北の新地西の 芝居 竹田万治郎座	心中紙屋治兵衛 上ノ巻 下ノ巻	浮瀬の段（是・彦）、新地茶屋の段（文字、政）、長町の段（梶）、かみや内の段（咲、染、跡稲）。 ※近松半二・他作「心中紙屋治兵衛」の初演。 ※京都大学図書館蔵「心中紙屋治兵衛」正本に、山本九葉亭・今井七郎兵衛・松本兵助・玉水源治郎版七行本（京都大学図書館蔵）あり、浮瀬の段に○・口の掛合の印がある（『義太夫年表 近世篇』に拠る）。 ※『闇の磔』に「吉田文三郎 切に紙治におさん孫右衛門の二やく別而孫右衛門は大出来一ツは此人で当りました」、「鶴沢文蔵 紙治にて下の巻衣裳出しの間の手さりとよふ付いた物」、「竹本政太夫 当地にて紙治は乳母にだかれた子迄が申程の事」、「鶴沢伊八 いつそや北新地にて紙治は当りました繁太夫ぶしの間の手をぬいての弾方きつと受ました」、「吉田磯五郎 新地にてよほどが間御つとめ紙治の小はるなどはきつう出来ましたぜんたいどふした事か此人のお山はちとしゆんで見へますしかし小春はいつそそれでよふござつた一体をちと花ある様にお気付られませい」とある。	きいの国や小はる（磯五郎）、粉屋孫右衛門（文三郎）、かみや治兵へ（門蔵）、かみやおさん（文三郎）。
一七七八	安永7	12/16~	竹本政吉座	増補天網島 上下	西照庵の段（重、文）、茶屋の段（茂、政）、長町の段（浅、源）、おまへ町の段（中、駒）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀伊国屋小春」。 ※『闇の磔』に「竹本中大夫 南にて紙治ちゃんがれもよふござりました」、「鶴沢市太郎 政丈と紙治にての出合新地にて伊八丈のひかれた所を撥かずを入ての弾方」とある。	小はる（真吾）、孫右衛門（冠蔵）、紙屋治兵へ（東十郎）、おさん（真吾）。
一七八二	天明2	9前後/16~	いなり芝居 豊竹生駒太夫座	紙屋治兵衛	浮瀬の段（町、生駒）、茶屋の段（磯、スケ政）、長町の段（浪、源）、紙やの段（芳、出水）。	小はる（しん吾）、こや孫右衛門（文三郎）、かみや治兵へ（千四）、女房おさん（東十郎）。
△ 一七六二 ~ 一七八三 カ	宝暦12 以後 天明3 以前カ		江戸カ	（紙 治）	茶屋（政）。 ※『義太夫執心録』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七八六	天明6	4/11～	道とんぼり東之芝居 竹本千太郎座	心中紙屋治兵衛 上のまき 下のまき	浮瀬の段（町、文、咲）、茶屋の段（雛、政）、長町の段（文、咲）、紙屋の段（中、内匠）。	小はる（磯五郎）、こや孫右衛門（文三郎）、かみや治兵へ（才治）、治兵へ女房おさん（三吾）。
一七九〇	寛政2	10/24前後～	名古屋 若宮御境内	天網島紙屋のだん	（口 杣、切 半出語り 紋）。 ※番付の人形役割には「増補天網島紙屋のだん」とある。	きのくにや小春（万蔵）、かみや治兵衛（虎蔵）、おさん（重吾）。
一七九一	寛政3	3/4～	北ほりへ市のかわしばい 豊竹此母座	増補天網島	紙屋の段（口 岡、切 江戸 紋、出がたりにて相勤〔不可知〕）。	きのくにや小はる（貫次郎）、かみや治兵へ（国八）、女ほうおさん（重五郎）。
一七九六	寛政8	6/17～	市の側東芝居	心中紙屋治兵衛	下の巻（口 枅、中 斧、切 紋）。	小はる（藤五郎）、紙屋治兵衛（政右衛門）、おさん（冠十郎）。
一七九七	寛政9	3/26～	道頓堀東芝居	天網島 上下 まくなし	浮無瀬のたん（かけ合 文・泉・理・陸・秀・要・千賀）、茶屋の段（口 三根、切 出語 氏）、長町のだん（口 要、奥 土佐）、増補 紙屋の段（口 文、切 出語 綱）。 ※角書「紙屋治兵衛／きの国や小春」。	きのくにや小はる（東作）、こや孫右衛門（定蔵）、紙や治兵へ（新吾）、女房おさん（辰五郎）。
一七九九	寛政11	2/16～	北の新地芝居	紙屋治兵衛	浮瀬のだん（かけ合 内匠・巴・岡・美代・式・坂）、茶やのだん（氏、政）、紙やの段（美代、内匠）。	小はる（重五郎）、粉や孫右衛門（音五郎）、紙や治兵へ（岩五郎）、治兵へ女房おさん（門蔵）。
一八〇二	享和2	10/22～	道とんぼり東ノ芝居	心中天網島	浮無瀬のたん（かけ合 巴・時・重・文字）、茶屋のだん（中、政）。 ※角書「紙屋治兵へ／きのくにや小はる」。	小はる（虎蔵）、孫右衛門（音五郎）、治兵衛（千四）。
一八〇二	享和2		名古屋 七ツ寺御境内	心中紙屋治兵衛	茶屋のたん（口 八百太、切 綿伊）。	
一八〇五	文化2	8以前	□□芝居	天のあみ島	茶やのだん（口 君、切 中）。	小はる（冠十郎）、孫右衛門（東十郎）、治兵へ（才治）。
一八〇六	文化3		江戸 結城座	増補天網島	紙屋のだん（口 御目見へ下り 淀＝太八、奥 御目見へ下り 紋＝八兵衛）。	小はる（下り 門蔵）、孫右衛門（東作）、治兵衛（清治）、おさん（金助）。
一八〇七	文化4	5/15～	伊勢 いせ古市常大芝居	心中紙屋治兵衛	茶やのだん（口 要、切 氏）。	小はる（元吉）、孫右衛門（冠四）、治兵衛（国五郎）。
一八〇七	文化4	5/16～	大西芝居	心中紙屋次兵衛	浮瀬の段（カケ合 津賀・君・伊勢）、新地茶屋の段（口 中、切 政）。	きの国や小はる（辰造）、粉や孫右衛門（音五郎）、紙や治兵へ（才二）。
一八一〇	文化7	3/22～	北ほり江荒木芝居	心中天網島 上下	浮みせのだん（口 和、奥 富）、茶屋のだん（口 塚、切 中）、紙やのだん（口 津賀、切 宮戸）、道ゆき（口 綾、富・ツレ 和）。	小はる（金吾）、粉や孫右衛門（門蔵）、紙や治兵へ（豊吾）、女ほうおさん（新吾）。
一八一〇	文化7	12/28～	大坂	増補天網島	かみやのだん（口 定、切 筆）。	小はる（正三）、治兵へ（冠四）、女房お三（紋蔵）。
一八一〇	文化8	閏2/5～	いなり境内	増補天網島	かみやのだん（口 歌代、切 綱）。 ※角書「小はる／治兵衛」。	小はる（国八）、治兵へ（与十郎）、おさん（新吾）。
一八一〇	文化8	4末～ 5初旬カ	名古屋 稻荷御社地操芝居	天網島	茶屋の段（新、中）。 ※角書「紙屋治兵へ／きの国や小春」。	女郎小はる（伝七）、粉屋孫右衛門（重五郎）、紙屋治兵へ（虎蔵）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一四	文化11	5/4~	道頓堀若太夫芝居	心中天網島	浮みせのだん（かけ合 咲・生駒・茂・三保・富・式・雛）、茶屋のだん（口 吾、切 中）。	小はる（冠十郎）、孫右衛門（冠四）、紙や治兵へ（才二）。
一八一四	文化11	5/4~	伊勢中地蔵大芝居	心中天網島	うかむせノ段（口 加、カケ合 むら・佐賀・新・津広・曾賀）、茶屋ノ段（口 佐賀、切 土佐）、長町（宮戸）、紙やノ段（口 津賀、中 むら、切 綱）。	小はる（辰造）、粉や孫右衛門（九孝）、紙や治兵へ（千二郎）、おさん（辰造）。
一八一五	文化12	5/15~	いなり社内	天網島	浮瀬のだん（千代、跡 かけ合）、茶やの段（口 重、切 中）、長町のだん（要）、紙屋のだん（口 十七、切 筆）。 ※角書「きのくにや小春／かみや治兵衛」。	小はる（国八）、孫右衛門（冠四）、治兵へ（兵吉）、おさん（国八）。
一八一五	文化12	5	奈良瓦堂	紙治茶屋段	（口 勝、切 戸和）。	おはる（国八）、孫右衛門（源十郎）、治兵へ（文造）。
一八一八	文化15	1/24~	いなり社内	心中天網島	長町のだん（むら）、紙屋の段（口 源、切 綱）、道ゆき（むら・ツレ源、跡 菊・森・峰）。	小はる（新二）、治兵へ（千次郎）、おさん（辰五郎）。
一八一九	文政2	11/16~	いなり社内	心中天網島	浮瀬のだん（かけ合 重・富・梶・音）、茶やのだん（口 富、切 中）、長町の段（むら）、紙屋のだん（口 梶、切 染）。	小はる（重五郎）、孫右衛門（千四）、治兵へ（千治郎）、おさん（新治）。
一八一九	文政2	11/16~	いなり社内	心中天網島	浮瀬のだん（かけ合 重・富・梶・音）、茶やのだん（口 富、切 中）、長町の段（むら）、紙屋の段（口 梶、切 染）。 ※前項と同一興行の別番付に拠る。初日・劇場・出演者の殆どを同じくしているが、「小はる」役の人形遣いが異なる。	小はる（辰五郎）、孫右衛門（千四）、治兵へ（千次郎）、おさん（新治）。
一八二〇	文政3	9/28~	御霊社内	天網島	長町の段（口 雛、おく 綾）、紙屋のだん（口 勝、切 筆）。 ※角書「きの国や小はる／紙屋治兵衛」。	きの国や小はる（国八）、かみや治兵へ（与十郎）、女ぼうおさん（金吾）。
一八二二	文政5	3/3~	京因幡薬師芝居	増補天網島	茶屋の段（口 綾、切 中）、紙屋の段（口 紋、切 綱）。 ※角書「治兵衛／小はる」。	小はる（国八）、孫右衛門（新吾）、治兵衛（才治）、おさん（千四）。
一八二二	文政5	4下旬~	兵庫兵庫芝居	増補天網島	茶屋の段（口 綾、切 中）、紙屋の段（口 紋、切 綱）。	小春（国八）、孫右衛門（新吾）、治兵衛（才治）、おさん（千四）。
一八二五	文政8	7/27~	稲荷境内芝居	天網島	茶屋のだん（口 式、切 中）。 ※角書「きの国や小はる／紙屋治兵衛」。	小はる（辰五郎）、孫右衛門（仙四）、治兵衛（才治）。
一八二五	文政8	11	御霊社内	天網島	うかむせのだん（かけ合 鐘・岡・和佐・元・勝）、茶やの段（口 富、切 若）。	小はる（国八）、かみや治兵へ（金四）、孫右衛門（金吾）。
一八二七	文政10	10/20~	いなり社内芝居	天網島	茶屋のだん（口 佐賀、切 重）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀伊国屋小はる」。	小はる（辰五郎）、粉屋孫右衛門（よ十）、紙屋治兵へ（才治）。
一八二八	文政11	2/16~	江戸土佐座	天網島	茶やの段（口 菅、御目見へ出語り 切 下り 中=吉左衛門）。 ※別番付には「増補 天網島 茶屋のだん」とある。	小はる（伊三郎）、孫右衛門（冠二）、治兵衛（下り 兵吉）。
一八二九	文政12	3/21~	稲荷社内	天網島上下	うかみせのだん（かけあい 三根・路・文・音羽・岡）、新地茶屋のだん（口 岡、切 高麗）、ちよんかれのだん（音）、火燵の段（春）。 ※角書「紙屋治兵衛／きの国や小春」。	小はる（辰五郎）、粉や孫右衛門（与十）、紙や治兵衛（才治）、治兵へ女房おさん（東十郎）。
一八二九	文政12	5	北の新地芝居	心中天網島	浮瀬のだん（かけあい 久・織・寿・頼母・当磨・琴）、新地茶屋の段（口 佐賀、切 重）。 ※角書「紀伊国屋小春／紙屋治兵衛」。	きの国や小はる（三吾）、粉屋孫右衛門（弥三郎）、紙や治兵へ（新吾）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三〇	文政13	閏3	京 四條北側大芝居	天 網 島 茶屋の段	茶屋のだん（錦、政）。 ※角書「紀伊国や小春／紙や治兵衛」。	小はる（辰造）、粉や孫右衛門（才治）、治兵衛（弥三郎）。
一八三一	天保2	4中旬～	堺 南新地芝居	心 中 天 網 島	河正のだん（口 筑庫、切 政）。 ※角書「小はる／治兵衛」。	小はる（国八）、孫右衛門（兵吉）、治兵へ（新治）。
一八三一	天保2	11/16～	名古屋 清 寿 院	増補紙屋内の段	（初）。	こはる（朝七）、治平（金三）、おさん（朝七）。
一八三三	天保4	4/22～	いなり境内	心 中 天 網 島	浮無瀬のだん（かけ合 島・錦・由良・音羽）、茶屋の段（口 島、切 むら）、紙屋の段（口 谷、中 音羽、切 長門）。 ※角書「きの国や小春／紙屋治兵衛」。	小はる（辰五良）、粉や孫右衛門（門蔵）、紙や治兵衛（金四）、女房おさん（辰五良）。
一八三六	天保7	3	北ほり江市の 側芝居	心 中 天 網 島	浮無瀬のだん（口 筆戸、おく 越）、茶屋のだん（口 頼母、切 重）。 ※角書「紀伊国屋小春／紙屋治兵衛」。	きの国や小春（辰造）、孫兵へ（新吾）、紙や治兵へ（国八）。
△ 一八三七	天保8	3/28～	名古屋 大須本堂うしろ芝居 小屋間南向	（天の網しま）	（里長＝仙次郎）。 ※『見世物雑誌』に拠る。	
一八三八	天保9	11/1～	稲荷社内東芝居	天 網 島	新地茶やの段（口 恵見、切 勢イ見）、紙屋内の段（口 島、切 鞆）。 ※角書「紀の国や小春／かみや治兵衛」。	きのくにや小春（辰五郎）、粉や孫右衛門（門蔵）、かみや治兵へ（金四）、治兵へ女房おさん（辰五郎）。
一八三九	天保10	2	北ほり江市の 側芝居	心 中 天 網 島	茶屋のだん（口 当磨、切 組、右出がたりにて相つとめ申候）。 ※角書「紙や治兵へ／紀伊国や小春」。	小はる（喜十郎）、孫右衛門（国五郎）、治兵へ（文三）。
一八四一	天保12	9	兵庫 兵庫常芝居	増 補 天 網 島	新地茶やノ段（口 鹿、切 佐賀）、紙や内のだん（口 富、切 恵美）。 ※「御霊一座引越」（番付）。	小はる（清十郎）、孫右衛門（門蔵）、治兵へ（冠四）、おさん（重八）。
一八四二	天保13	8/1～	あみだ池	紙 治	内（文字）。 ※天保改革の宮芝居禁止令のため、太夫たちは素浄瑠璃の席に出演して、一時糊口をしのぐ。この興行もそのひとつであろう（『義太夫年表 近世篇』）。	
一八四二	天保13	10/2～	名古屋 若宮御境内	天 網 島	茶屋（若正事 要）。 ※番付に記された「寅」を天保13年としたが、天保元年などの可能性も残る（『義太夫年表 近世篇』）。 ※素浄瑠璃興行。	
一八四四	天保15	1/5～	江戸 猿若町老丁目 大薩摩座	天 網 島	茶屋の段（口 政戸、切 中）、紙屋の段（口 浪、切 伊勢）。 ※角書「きの国屋小春／紙屋治兵衛」。	小はる（力蔵）、粉や孫右衛門（国五郎）、紙や治兵衛（冠二）、女ほうおさん（伊三郎）。
一八三〇～ 一八四四	天保年中	8/19～	京 御池八まん	紙 治	茶屋場之段（カケ合 粉屋孫右衛門一天喜・きいの国や小春一竹義・善六 ヒライ一竹雛・太兵衛一葉・紙屋治兵衛一泉平）。 ※太夫が素人であるが、本職として活躍する人物が含まれているので参考として掲げる。竹義は天保2年9月江戸土佐座に「京竹義事竹本入太夫」として出演している（『義太夫年表 近世篇』に拠る）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四五	弘化2	9	京 四条南側大芝居	増補天網島 上の巻	茶屋のだん（口浪、切勢見）。	小はる（三吾）、粉や孫右衛門（門十郎）、紙や治兵へ（新吾）、おさん（冠三）。
一八四六	弘化3	3	堺 堺新地南芝居	天網島紙屋治兵衛	紙屋内のだん（口広、切春）。	小はる（咲造）、紙や治兵へ（虎造）、おさん（辰造）。
一八四六	弘化3	8下旬～	伊勢 古市芝居小家	紙 治	茶屋場のたん（頼母）。	
△	一八五〇	嘉永3	3/21～	播州 明石平松山	（紙 治） 内（小埜＝清吾）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 姫路竜ノ町	（紙 治） 内（小埜）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 網 干	（天 網 島） （小乃）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	西横堀鰻谷	（紙 治） 内ノ段（叶）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	10カ/12	丹後 願 蔵 寺	（紙 治） 内（豊峰）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五一	嘉永4	7頃	江戸 さ や 丁	（天 網 島） 紙屋（佐賀）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五二	嘉永5	5/18	上町鍵屋町大 ろうじ席	（紙 治） （長子カ）。	
		5/19	（小鞆）。			
		5/21	（長子カ）。 ※『弥太夫日記』に拠る。			
一八五三	嘉永6	4	江戸 両国回向院境内	天のあみじま 下の巻	紙屋内のたん（口玉喜、切大和）、大長寺のたん（住戸）。 ※角書「小はる／治兵衛」。	小春（清吉）、孫右衛門（冠二）、治兵衛（冠平）、おさん（文四）。
一八五四	嘉永7	9	新築地清水町 浜	心 中 天 網 島	浮瀬のだん（多賀）、茶屋のだん（中当久、切湊）、紙屋のだん（中勇、切田組、跡和国）、道行（多賀・田喜・秀）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀伊国屋小春」。	
一八五四	嘉永7	11/1～	天神境内新門 西北角	天 網 島	茶屋場のだん（口三国＝新治良、切長尾＝団平）、紙屋内火燵のだん（口森＝絹松、切富司＝燕二）。	
一八五五	安政2	8/24～	京 四条北側芝居	紙 次	内之段（富司＝燕二）。	
一八五六	安政3	9/9～	京 寺町道場境内 新席	増補天網島時雨 巨燵	紙や次兵衛住家の段（口小津賀＝安二郎、切浪＝音五郎）。	
一八五六	安政3	11	名古屋 若宮御境内	天 網 島	紙治（口豊、切東）。	小はる（清十郎）、紙屋治平（太吉）、おさん（伝吉）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五七	安政4	2/28～	法善寺浄るり席	天 網 島	こたつ（磯）。	
一八五七	安政4	11月上旬～	名古屋若宮	時 雨 巨 燧	（津=小兵）。	
一八五八	安政5	2	京四條南側大芝居	増 補 天 網 島	茶やのだん（口 和国、切 湊）、紙や内だん（口 文、切 むら）。 ※角書「紀ノ国屋小春ノ紙屋治兵衛」。	小はる（兵吉）、孫右衛門（新吾）、治兵へ（玉蔵）、おさん（文三）。
一八五八	安政5	10/2～	京寺町道場北新席	天 網 島	紙屋の段（絹）。	
一八五八	安政5	10/5～	稲荷社内東小家	心 中 天 網 島	紙屋のだん（中 弥、切 湊、跡 音賀）、道行朧の月影（むら・氏・曾根）。 ※角書「紀伊国や小春ノ紙屋治兵衛」。	小春（兵吉）、孫右衛門（千柳）、治兵衛（玉造）、おさん（兵吉）。
一八五九	安政6	2	京四條南側大芝居	天 網 島	紙治内ノ段（口 是=才知、切 津賀=源吉）。	
一八六〇	安政7	1/2～	道頓堀法善寺小家	天 網 島	新地茶屋の段（対馬=猿糸）。	
一八六〇	安政7	1/2～	京寺町道場北小家	（心中天網島）	茶屋場（是=庄吉）。 ※角書「小春ノ治兵へ」。	
一八六三	文久3	8	京寺町和泉式部境内	増 補 天 網 島 上ノ巻	茶やのだん（小津賀、三光齋）。	紀伊国や小春（歌録）、孫右衛門（門十郎）、紙や治兵へ（文三）。
一八六三	文久3	9	堀江芝居	心 中 天 網 島	茶や場のだん（口 吾妻、切 三光齋）、紙治内のだん（口 越路、切 生駒）。	小はる（歌録）、孫右衛門（門蔵）、紙や治兵へ（文三）、女房おさん（歌録）。
一八六三	文久3	10	堺堺新地南芝居	心 中 天 網 島	次兵へ内のだん（口 園、切 生駒）。	小春（歌録）、孫右衛門（門十郎）、紙や治兵へ（文三）、女房おさん（歌録）。
△一八六四	文久4	1/17	泉州淡輪	（紙 治）	茶屋（長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八六四	元治1	7	天満戎門	天 網 島 上ノ巻	新地茶やノ段（口 尾上、切 津賀）。 ※角書「紙や治兵へノ紀ノ国や小春」。	
一八六四	元治1	10/16～	いなり東小家	心 中 天 網 島 上下	新地茶やの段（中 長枝、切 湊）、紙屋の段（中 多満、切 咲、跡 二見）、道行朧の月影（筑前・佐賀・竜）。	小春（松江）、孫右衛門（才治）、紙や治兵へ（玉造）、おさん（喜十郎）。
一八六五	慶応1	閏5	京四條道場北ノ小家	時 雨 の 炬 燧	紙治内ノ段（春=吉兵衛）。 ※角書「紀伊国や小春ノ紙屋治兵衛」。	
一八六六	慶応2	6/18～	京四條北側大芝居	天 網 島	茶やノだん（津賀=兵吉）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六六	慶応2	6/18~	京 四條北側大芝居	紙 治	内のたん（春＝吉兵衛）。 ※前項と同一興行の別番付に拠る。	
一八六六	慶応2	9/9~	京 四條道場北の 小家	時 雨 炬 燵	紙治内段（津賀子＝鶴太郎）。	
一八六七	慶応3	6中旬~	名古屋 清寿院御境内	天 網 島	紙治内のだん（理）。	紀の国や小はる（鹿蔵）、紙屋治兵衛（金四）、女房おさん（歌録）。
一八六七	慶応3	10	名古屋 若宮御社内	紙 治	茶屋場（浜）。	小はる（歌録）、孫右衛門（金四）、治兵へ（才治）。
一八六八	慶応4	1/2~	京 四條北側大芝居	時 雨 炬 燵	紙治内ノ段（津＝庄之助）。	
一八六八	明治1	12/6~	京都 四條北側芝居	時 雨 炬 燵	紙治内（文字＝団六）。	
				天 網 島	茶や（津賀＝豊吉）。	
一八六九	明治2	9	いなり東芝居	心 中 天 網 嶋 上中下	新地河庄の段（中 染子、切 湊）、紙屋のだん（中 浪、切 春、跡 春 戸）、道行花のかへり咲（むら・染子・常・七）。 ※「九月廿四日ヨリ」（番付書込み）。	紀の國や小春（辰造）、粉や孫右工門（喜十郎）、紙や治兵へ（玉造）、女房おさん（辰造）。
一八六九	明治2	10/11~	京都 道場北の小家	天 網 嶋	茶や場ノ段（浜＝喜代七）。	
一八六九	明治2	12/10~	京都 北側大芝居	時 雨 炬 燵	紙次内（むら）。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記述が見当たらないが、出演者の改名等の情報から、ここでは仮に明治2年のこととした。	
一八七〇	明治3	3/3~	京都 道場北ノ小家	時 雨 炬 燵	紙次内ノ段（むら＝喜代七）。	
一八七一	明治4	5	京都 和泉式部芝居	紙 治	茶や場（操＝小玉）。 ※浄瑠璃身振りカ。	
一八七一	明治4	12/9~	京都 寺町北向芝居	(心中天網島)	紙治内（浜＝庄次郎）。	
一八七二	明治5	9	松嶋文楽座	天 網 嶋	新地茶やのだん（中 春栄、切 古靱）、紙屋のだん（中 弥、切 むら）。 ※角書「紀の國や小春ノ紙や治兵衛」。 ※「九月廿七日ヨリ卅七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	紀の国や小春（玉造）、粉や孫右工門（辰五郎）、紙や治兵衛（玉助）、女房おさん（辰造）。
一八七四	明治7	5/1~	京都 新京極町四條 上ル東 亀の家席	紙 治	茶や場（鶴＝安次郎）。	
一八七四	明治7	7	堀江芝居	心 中 天 網 嶋 上下	茶やの段（口 春子、切 浜）、ちよんがれのだん（口 津）、紙治内のだん（切 織）。 ※角書「紀の國や小春ノ紙屋治兵衛」。	小はる（辰太郎）、粉や孫右工門（小辰造）、紙や治兵へ（光造）、女房おさん（喜十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七四	明治7	9中旬～	京都 和泉式部演劇	心中天網島	紙次内の段（春子、織）。 ※竹本春子太夫を（口 嶋）とし、竹本織太夫に「切」とつく改板がある。	小はる（辰太郎）、孫右衛門（門蔵）、治兵衛（小兵吉）、女房おさん（喜十郎）。
△ 一八七四	明治7	12/10～	名古屋 古袖町芝居 （橋 座）	（紙 治）	時雨。 ※『古袖町勾欄記』に拠る。	
一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	天 網 島	紙次内（伊達＝亀助）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七五	明治8	12	名古屋 末広座	紙 治	茶屋場の段（額）。 ※太夫 豊竹駒太夫。素浄瑠璃カ。	
一八七六	明治9	1	名古屋 橋 座	（心中天網島）	茶屋場（長枝＝勝造）。 ※角書「小はる／治兵衛」。	
				天 網 嶋	紙治内のだん（若＝豊造）。 ※太夫 竹本越太夫。	
一八七七	明治10	1	大江ばし席	心中天網島 下の巻	長町の段（中 木根改 若松）、紙屋のだん（切 駒＝*吉弥）。 ※角書「小春／治兵へ」。	紀の国や小春（辰太郎）、紙や治兵へ（勇造）。
一八七七	明治10	2/13～	弁 天 座	（心中天網島）	紙次内（綱）。 ※故人太鼓卯之助追善「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。 ※日程は番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	10/1～	京都 せいぐわんじ 本堂前 夷 谷 座	心中天網島 上中下	浮無瀬の段（亀尾）、茶や場の段（操）、内之だん（若）。 ※浄瑠璃身振り。	
一八七九	明治12	11	ばくろ町いな り北門定小家	心中天網島	北の新地河庄のだん（中 宮、切 春子）。 ※角書「紀の國や小春／紙や治兵へ」。	紀の国や小春（才治）、杉や孫右衛門（金四）、紙や治兵へ（光造）。
一八八〇	明治13	11	松嶋文楽座	心中網島噺	紙や治兵へ内のだん（中 三根、切 住、跡 楠）、道行朧の月影（三根・田喜・谷・七五三・津瑠、出遣いにて相つとめ申候）。 ※角書「紀の国や小春／紙や治兵へ」。 ※「十一月十六日ヨリ廿五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	紀の國や小春（紋十郎）、粉や孫右工門（小兵吉）、紙や治兵へ（玉助）、女房おさん（鹿造）。
一八八二	明治15	11	松嶋文楽座	心中網島噺	紙や治兵衛内のだん（中 氏、切 越路、跡 谷）、道行朧の月影（むら・栄・梶栄・梶賀）。 ※角書「紀の国や小春／紙や治兵衛」。 ※「十一月廿一日ヨリ十二月十四日マデ廿二日間」「廿三日マデ廿二日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	小春（鹿造）、粉や孫右工門（藤作）、紙や治兵へ（玉助）、女房おさん（紋十郎）。
一八八五	明治18	11/14～	彦 六 座	心中天網島 下の巻	紙屋内のだん（中 町、切 大隅、跡 山登）、道行花のかへり咲（シテ 富司・ワキ 袖・ツレ 芳・ツレ 組路）。 ※角書「紀の国や小春／紙屋治兵衛」。 ※「十一月十四日ヨリ十二月六日マデ廿三日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	紀の國や小春（亀松）、粉や孫右衛門（才治）、紙や治兵衛（兵吉）、女房おさん（三吾）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八八八	明治21	2/18	名古屋 末広座	(天網島)	紙治内(越路=吉兵衛)。 ※角書「小はる/治兵衛」。 ※越路太夫・吉兵衛らによる素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八八	明治21	8/3	名古屋 千歳座	(天の網島)	巨(ママ)燧の場(津=広助)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八八八	明治21	12	御霊文楽座	天網嶋 上中下	新地河庄のだん(中谷、切津)、紙屋のだん(中織、切越路)、 裏町のだん(富、路)、道行のだん(かけ合綾・文・高尾、此所出つ かひにて御覧に入申候 桐竹紋十郎/吉田玉七/吉田金之助)。 ※角書「紙屋治兵衛/紀の国や小春」。 ※「十二月一日ヨリ十二月十一日及び廿二年一月十六日マデ廿六日 間」「十五日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀の国や小春(紋十郎)、粉や孫右工門(玉 造)、紙や治兵へ(玉七)、女房おさん(玉 造)。
△	一八八九	明治22	8/14・17	京都 北側演劇場	(紙治)	茶屋場(津=勝七)、炬燵場(越路=広助)。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八八九	明治22	10	彦六座	心中天網嶋 上下	新地茶やのだん(中住次、切新靱)、紙治内のだん(中芳、切 朝)、道行花のかへり咲(田喜・伊達・七々子・朝路、此所出つかひ にて御覧に入申候)。 ※角書「紀の國や小春/紙や治兵衛」。	紀の国や小春(玉米)、粉屋孫右工門(辰五 郎)、紙屋治兵へ(亀松)、女房おさん(三 吾)。
△	一八九〇	明治23	2/21	名古屋 千歳座	(天の網島)	紙治内の段(朝=広作)。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	4/26	名古屋 千歳座	(天網島)	茶屋場(新靱)、紙治内の段(朝=広作)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	12/3	名古屋 千歳座	(紙治)	茶屋場(越)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/10	名古屋 末広座	(紙次)	茶屋場(路=花助)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/23	京都 北座	(心中天網島)	紙治茶屋場の段(路)。	
		1/30	時雨の炬燵(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」1月29日に「本日限りにて打揚げ」との記事もある。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。				
△	一八九一	明治24	8/21	京都 北座	(心中天網島)	茶屋場(路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割		
△	一八九二	明治25	1/29	京都 北座	(増補天網島) 炬燵(路=花助)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一八九二	明治25	7/24	名古屋 千歳座	(小春治兵衛) 紙屋の内(初お目見得 相生=鶴太郎)。 ※文楽・彦六両座合併「大阪浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一八九二	明治25	8/19	名古屋 千歳座	(小春治兵衛) 紙屋内(朝=仙次郎)。 ※竹本朝太夫・豊竹新靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一八九三	明治26	8/8	名古屋 末広座	(紙 治)	巨燵(炬燵=広助)。		
					8/11	(小春治兵衛)	紙屋(相生=勝右衛門)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/15	京都 南座	(小春治兵衛) 茶屋場(路)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一八九三	明治26	10/11	名古屋 音羽座	(時雨炬燵) 紙治内(綱登=芳三郎)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一八九三	明治26	10/18	名古屋 千歳座	(小春治兵衛) 紙屋(伊達=友松)。 ※大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一八九四	明治27	2/1	京都 南座	(天 網 島)	紙屋内(綾)。		
					2/3	(小春治兵衛)	茶屋(路)。	
					2/6		紙屋(相生)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	5	御霊文楽座	心中天網島 新地河庄のだん(中むら、切津=*吉兵衛)、紙治内のだん(中さの、切越路)。 ※「五月廿五日ヨリ六月十五日マデ廿二日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀の国や小春(亀松)、粉屋孫右エ門(玉造)、紙屋治兵衛(玉助)、女房おさん(紋十郎)。		
△	一八九四	明治27	7/20	名古屋 新守座	(時雨こたつ) 紙治内の段(綾=勝七)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一八九四	明治27	7/24	名古屋 宝生座	(時雨こたつ) 紙治内の段(綾=勝七)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九四	明治27	12/18	京都南座	(小春次兵衛)	こたつ(浪友)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/12	名古屋千歳座	(小春治兵衛)	紙や(高尾)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/17	名古屋笑福座	(紙屋治兵衛)	(鶴尾)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九五	明治28	12/16カ	浪花座	(心中天網島)	紙治内(伊達=友松)。 ※稻荷座総一座。素浄瑠璃。	
△	一八九六	明治29	1/26	名古屋千歳座	(紙屋治兵衛)	茶屋場(越=小团治)。	
		2/4	(小春治兵衛)		茶屋場(新靱=仙昇)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一八九六	明治29	2/19	名古屋千歳座	(紙屋治兵衛)	茶屋場(新靱)。 ※竹本越太夫。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	4/17	京都坂井座	(小春治兵衛)	紙屋内(さの=叶)。 ※さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	7/29	京都南座	(紙治)	こたつ(高尾)。	
		7/30			時雨こたつ(越路=広助)。		
		8/1			茶屋場(尾上)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一八九六	明治29	8/9	名古屋末広座	(紙治小春)	紙屋の段(伊達=友松)。 ※大隅太夫・团平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	10/1	京都南座	(紙治)	茶屋場(越)。 ※大隅太夫・团平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九六	明治29	12/1~	御霊文楽座	心中天網嶋	河庄のだん（中 綾、切 越路＝広助）、紙屋治兵衛内のだん（中 谷、切 津＝吉兵衛）、新地裏町のだん（後 呂嶋）、道行恋の網島のだん（小春＝むら・治兵衛＝鶴尾・津ばめ・呂嶋＝勇造・徳太郎・寛次郎・竹三郎・鶴五郎・花勇・綱造・小庄・大之助）。 ※「十二月一日ヨリ十七日マデ十七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※初日の日付・三味線は五世鶴沢勇造旧蔵稽古本の書入れに拠る。 ※尚、右書入れでは太夫三味線役割に異同があり、「河庄 中」谷＝叶、「紙屋 中」綾＝勝右衛門と記載。また、叶は二代叶と書入れされているが、三代鶴沢叶のことと思われる。	紀の国や小春（玉助）、粉屋孫右工門（紋十郎）、紙屋治兵衛（玉造）、道行治兵へ（文三）、女房おさん（玉五郎）。
一八九六	明治29	12/6~	稲 荷 座	心中天網嶋 上下	新地河庄のだん（中 長子、切 組、此所人形出つかひにて御覧に入申候）、紙屋治兵へ内のだん（中 春子、切 大隅＝団平）。 ※角書「紀の國や小春／紙屋治兵衛」。	紀の国や小春（玉米）、粉屋孫右工門（駒十郎）、紙屋治兵衛（玉松）、女房おさん（亀松）。
△	一八九六	明治29	名古屋 千 歳 座	(小春治兵衛)	茶屋の場（新靱＝仙昇）。	
				(天 網 島)	紙治内（伊達＝友松）。 ※竹本越太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	名古屋 音 羽 座	(小春治兵衛)	紙屋の段（相生＝大造）。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	名古屋 音 羽 座	(小春治兵衛)	紙屋の段（東＝伝四）。 ※竹本相生太夫一座。前項の二の替り。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	名古屋 千 歳 座	(小春治兵衛)	茶屋場（住＝小団治）。	
				(心中天網島)	こたつ（伊達＝友松）。 ※竹本組太夫・住太夫・朝太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	名古屋 千 歳 座	(天の網島)	紙治巨（ママ）燧（朝＝松太郎）。 ※組太夫・朝太夫・生島太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	京都 南 座	(心中天網島)	茶屋場（尾上＝勝友）。 ※角書「小春／治兵衛」。	
		8/2		(小春治兵衛)	茶屋場（鶴尾＝竹三郎）。	
		8/3		(心中天網島)	紙屋内（津＝吉兵衛）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九七	明治30	11/3	京都南座	(心中天網島)	紙やの段(佐の)。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/8	京都南座	(紙 治)	河庄(鶴尾)。 ※竹本文字大夫(佐野太夫改め)・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/22	弁天座	(紙 治)	茶屋(住)。 ※稻荷座連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/24	名古屋御園座	(小春治兵衛)	紙屋内(文字=猿系)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九八	明治31	9	御霊文楽座	心中天網島	北新地河庄のだん(口綾登、文字)。 ※「九月十一日ヨリ十月十日マデ卅日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	小はる(金之助)、粉屋孫右工門(紋十郎)、紙屋治兵へ(玉助)。
△	一八九八	明治31	12/11	名古屋御園座	(小春治兵衛)	茶屋場(住=小団二)、紙屋内(朝=松太郎)。 ※大阪大隈(ママ)一座・東京朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九九	明治32	1/2~	明楽座	心中天網島上下	新地河庄のだん(中 小隅、切 住)、紙治内のだん(中 芳、切 伊達=*友松)。 ※角書「紀の国や小春／紙屋治兵へ」。	紀の国や小春(簑助)、粉や孫右工門(門蔵)、紙や治兵へ(玉米)、女房おさん(清十郎)。
△	一八九九	明治32	3/12	名古屋末広座	(小春治兵衛)	紙屋内(春子=新左衛門)。 ※大阪稻荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	4/26	名古屋西栄座	(心中天網島)	紙屋内(春子)。 ※大阪若手浄瑠璃、春子太夫・新左衛門一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/15	東京歌舞伎座	(心中天網島)	紙屋(伊達=友松)。 ※素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/26	京都南座	(紙 治)	茶屋場(文字=猿系)。	
		7/27	(小春治兵衛)		紙屋内(越路=吉兵衛)。		
		8/2	(天網島)		紙屋(寿=吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九九	明治32	12	御霊文楽座	心中天網島	紙治内のだん（中文字、切越路）。 ※「十二月一日ヨリ十二月十七日マデ」（『義太夫年表 明治篇』）。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右工門（玉治）、紙屋次兵へ（玉助）、女房おさん（玉造）。
△	一八九九	明治32	京都南座	（心中天網島）	紙屋（文字＝猿系）。 ※角書「小春／治兵衛」。	
				（紙治）	茶屋場（南部＝吉作）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/2	京都南座	（紙治） こたつ（文字）。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	名古屋末広座	（小春治兵衛）	紙屋（文字＝猿系）。	
				（小はる治兵衛）	紙屋（南部）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/28カ～9/3	京都南座	（心中天網島） 紙治茶屋場。 ※「素黒入混ぜ太夫に大阪文楽座の玉造・紋十郎一座の人形遣ひにて開場」（「京都日出新聞」8月23日）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	小春（玉松）、孫右衛門（玉松）、治兵衛（玉造）。
△	一九〇〇	明治33	名古屋末広座	（小春治兵衛）	紙屋宅（春子＝新左衛門）。	
					茶屋場（住＝小団二）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	2/3	名古屋御園座	（天網島） 紙治内（小隅＝力松）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	4/10	京都弁天座	（紙治） 炬燵（薩摩）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	6/15	名古屋千歳座	（小春治兵衛） 紙屋（伊達）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋歌舞伎座	（小春治兵衛）	紙屋の段（越路＝吉兵衛）。	
				（天網島）	河庄内（南部＝寛次郎）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/6	京都南座	（天網島） 紙治茶屋場（南部）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇一	明治34	8/17	京都 幾代亭	(心中天網島) 紙治内(小隅)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/29	名古屋 末広座	(炬燵) 紙治(春子)。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/6	東京 歌舞伎座	(小春治兵衛) 紙屋(伊達=友松)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/7	名古屋 末広座	(小春治兵衛) 茶屋場(住=小団二)。	
					(紙屋治兵衛) ちよんかりの段(弥生=富太郎)。	
					(天の網島) 紙屋内の段(朝=松太郎)。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	1/29	京都 南座	(紙治) 紙治(文字=吉弥)。 ※鶴沢紫騰追善浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	3以前	東京芝 琴平亭	(心中天網島) 紙治(朝=松太郎)。 ※『演芸世界』第13号に拠る。	
△	一九〇二	明治35	4/2	名古屋 末広座	(小春治兵衛) 紙屋内(生島=仙十郎)。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・豊沢新左衛門・仙十郎・外十数名。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	6/2	京都 岩神座	(天網島) 紙治内(南部=寛次郎)。 ※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/8	京都 南座	(心中天網島) 紙治(南部=寛次郎)。	
					8/10	紙屋(文字=吉弥)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇二	明治35	8/26	京都 歌舞伎座	(時雨巨燵) 紙治内(生島)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇二	明治35	11/1~	御霊文楽座	心中天網島 紙屋内のだん(中南部、切文字)。 ※「十一月一日ヨリ十二月二日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀の国屋小春(助太郎)、兄孫右工門(玉朝)、紙屋治兵衛(玉助)、女房おさん(紋十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇二	明治35	名古屋 千歳座	(心中天網島)	(住)。	
					紙治内(富士)。	
					紙治(加賀)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/18	京都 夷谷座	(天網島) 治兵衛内(春子)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/21	東京 歌舞伎座	(心中天網島) 新地茶屋の段(長子=八助)。 ※『歌舞伎』第40号に拠る。	小春(紋十郎)、孫右衛門(玉造)、治兵衛(玉助)。
△	一九〇三	明治36	京都 南座	(紙治)	茶屋(新靱=市次郎)。	
					(小春治兵衛) 紙屋(越路=吉弥)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/12	京都 千本座	(心中天網島) 巨燵(南部)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/21~27	京都 南座	(天網島) 川庄(長子=龍助)。 ※玉造・紋十郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	小春(助太郎)、孫右衛門(玉治)、治兵衛(玉助)。
△	一九〇三	明治36	12/3	名古屋 千歳座	(小春治兵衛) 紙屋(葉)。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	7/19	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/6	京都 歌舞伎座	(心中天網島) 紙治(越路=吉弥)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	8/16	京都 千本座	(心中天網島) 紙屋(南部)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	9/16	名古屋 歌舞伎座	(小春治兵衛) こたつ(伊達)。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鋳太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇四	明治37	9/18	天満座	(心中天網島) 紙治内(越路)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九〇四	明治37	11	御霊文楽座	心中天網島 浮無瀬のだん(文)、新地河庄のだん(中南部、切津=猿糸)、紙治内のだん(中叶、切越路)、新地裏町の段(鏝)、道行=理の蜷川(小春=時・治兵へ=津ばめ・津直・越喜・隅の)。 ※=(木へんに連) ※「十一月廿三日ヨリ十二月七日マデ十五日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀伊の国屋小春(栄三)、粉屋孫右工門(紋十郎)、紙屋治兵衛(玉助)、女房おさん(紋十郎)。
△	一九〇四	明治37	12/13	東京歌舞伎座	(小春治兵衛) 紙屋(越路=吉弥)。 ※文字太夫改メ三代目竹本越路太夫襲名披露。	
		12/20	(天網島) 新地茶屋(南部=寛治郎)。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。			
△	一九〇四	明治37	12/17	角座	(天網島) 炬燵(伊達)、茶屋(長子)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	1/23	京都朝日座	(心中天網島) 紙屋内(伊達=市二郎)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	2/22	名古屋新守座	(心中天網島) 新地茶屋場(住)、紙屋内炬燵の段(越路)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	2/25	京都夷谷座	(紙治) 茶屋場、紙治。 ※女義太夫豊竹呂昇一座に、吉田襄助、兵吉一座の人形が入っての打ち交じり興行。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	6/4	京都岩神座	(心中天網島) 治兵衛内(伊達)。	
		6/12	紙治内(葉)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九〇五	明治38	7/9	名古屋新守座	(時雨こたつ) 紙治内(千代)。	
		7/14	(小春治兵衛) 紙屋内(富)。			
		7/15	(天網島) こたつ(葉)。 ※竹本文太夫一座による「大阪/文楽若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇五	明治38	東京 歌 舞 伎 座	(心中天網島)	紙治(伊達=市次郎)。	
		7/19				
		7/22			紙治(長子=仙之助)。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 南 座	(心中天網島)	紙治内(南部=猿系)。	
		8/14				
		8/18			紙治内(津摩)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿系一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 千 本 座	(心中天網島)	紙治内(津摩)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	名古屋 千 歳 座	(小春治兵衛)	紙屋の段(南部)。 ※「大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	京都 明 治 座	(心中天網島)	紙治内(南部=猿系)。	
		12/12				
		12/15		(天網島)	茶屋場(南部=猿系)。 ※撰津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	京都 南 座	(心中天網島)	紙治内(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	堀 江 座	心中天網島	新地河庄のだん(中 鑿、切 伊達=*市治郎、此所人形出遣いにて御覧に入候)、紙屋治兵衛内のだん(中 角、切 春子)。	紀の国屋小春(簗助)、粉屋孫右工門(兵吉)、紙屋治兵へ(玉松)、女房おさん(玉治)。
△	一九〇六	明治39	京都 歌 舞 伎 座	(心中天網島)	紙治内(南部)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	名古屋 末 広 座	(小春治兵衛)	紙屋内(越路)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	京都 千 本 座	(心中天網島)	紙治内(南部)。	
		8/8				
		8/11				
		8/12			紙治(津磨)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	名古屋 歌 舞 伎 座	(小春治兵衛)	紙屋内(春子)。 ※竹本津ばめ太夫ほかによる「大阪若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇六	明治39	12/11	名古屋 末広座	(紙 治) 茶屋(住=龍助)、紙治内(朝=松太郎)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇七	明治40	1	御霊文楽座	心中天網嶋 浮無瀬のだん(時)、紙屋内のだん(中七五三、切撰津大掾)。 ※「一月二日ヨリ二月十五日マデ四十一日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	小春(栄三)、粉屋孫右工門(政亀)、紙屋治兵へ(多為蔵)、女房おさん(紋十郎)。
△	一九〇七	明治40	8/11	京都 南座	(心中天網島) 紙治内(越路=吉弥)。 ※撰津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	8/20	京都 大宮座	(心中天網島) 紙治内(米)。 ※南部太夫・源太夫・さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/14	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・ゞ太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/17	名古屋 末広座	(小春治兵衛) 河庄(住=龍助)。	
		12/19	(紙屋治兵衛)		(富)。	
		12/22	(心中天網島)		紙治内(里)。 ※「大阪文楽／堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	2/26	京都 歌舞伎座	(心中天網島) 紙治内(里)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/14	名古屋 末広座	(小春治兵衛天 の網島) 紙屋内の段(伊達=吉三郎)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇八	明治41	6/15~	堀江座	心中天網嶋 紙治内のだん(中鑊、切伊達=*吉三郎)、道行花の返り咲(静・組栄・敷嶋・新菅)。 ※角書「小春／治兵衛」。	小春(亀松)、粉屋孫右工門(東吉)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(小兵吉)。
△	一九〇八	明治41	8/10	京都 南座	(天網島) 新地茶屋(伊達)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/16	中座	(紙 治) 茶屋場(伊達)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/9	京都 南座	(心中天網島) 紙治内(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇八	明治41	9/18	京都 岩神座	(心中天網島) 紙治(里)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※「岩神座の素浄瑠璃は文楽座連中初めて出勤のこととて非常に景気よく…」(「大阪朝日新聞(京都附録)」9月16日)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/12	名古屋 御園座	(小春治兵衛) 紙治(叶=吉松)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/14	東京 歌舞伎座	(紙治) 炬燵(摂津大掾=広助)。 ※竹本摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/24	京都 歌舞伎座	(天網島) 紙屋(叶=兵内)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	1	御霊文楽座	心中天網島 北新地河庄のだん(中津ばめ、切摂津大掾)、紙屋内のだん(中南部、切越路=*吉兵衛)、北新地裏町の段(富)、道行のだん(かけ合時・源・津磨・越見)。 ※「一月二日ヨリ二月十四日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀伊の国屋小春(三左衛門)、粉屋孫右工門(紋十郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(紋十郎)。
△	一九〇九	明治42	2/19	京都 南座	(心中天網島) 紙治内(南部)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	7/26 7/29	名古屋 千歳座	(心中天網島) 紙治(伊達)。 紙治(組栄)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8/22	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/5	京都 南座	(心中天網島) 紙治(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座、越路太夫・南部太夫・鶴尾太夫・常子太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/11	京都 国华座	(天網島) 紙治内(さの=大之助)。 ※東阪合同浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	12/18	京都 末広座	(心中天網島) 紙治内(鳴門)。 ※鳴門太夫主催忘年浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一〇	明治43	2/20	京都 明治座	(心中天網島) 紙治(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一〇	明治43	6/1~	堀江座	心中天網島 新地茶屋河庄のだん(中 綴、切 伊達)、紙治内のだん(中 錦、切 大隅)、道行花のかへり咲(綴・米・生栄・雛子・的、此所人形出遣いにて御覧に入申候)。 ※角書「紀伊国屋小春／紙屋治兵衛」。	紀伊国屋小春(文五郎)、粉屋孫右工門(東吉)、紙屋治兵衛(駒十郎)、女房おさん(玉造)。
△	一九一〇	明治43	7/5	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙治(伊達=吉三郎)。	
			7/7		(小春治兵衛) 河庄(伊達=吉三郎)。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/20	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/5	京都 南座	(心中天網島) 紙治(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/15	京都 国华座	(心中天網島) 紙治内の段(葉=兵三)。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/21	京都 歌舞伎座	(心中天網島) 河庄(葉)。	
			8/23		(時雨炬燵) 紙屋(葉)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10/21	京都 明治座	(心中天網島) 紙治内(越路)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/12	名古屋 千歳座	(心中天網島) 紙治(薩摩)。 ※豊竹薩摩太夫・小鞆太夫・薩喜太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/14	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古鞆太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	3/25	名古屋 御園座	(紙屋) (時=鶴太郎)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/10	京都 歌舞伎座	(心中天網島) 紙屋内(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一一	明治44	浪花座	(心中天網島)	紙治内(越路)。		
				(紙治)	茶屋(南部)。		
				(心中天網島)	紙治内(南部)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。		
△	一九一一	明治44	9/1	京都南座	(心中天網島)	紙治内(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9/11	京都岩神座	(心中天網島)	紙治(南部)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/11	名古屋末広座	(心中天網島)	紙治内(伊達=吉三郎)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一一	明治44	10/25~	御霊文楽座	心中天網島	北新地河庄のだん(中古靱、切越路=吉兵衛)、紙屋内のだん(中南部、切撰津大掾)。 ※「十月廿五日ヨリ十一月廿八日マデ」「廿四日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	紀の国屋小春(三左衛門)、兄孫右エ門(多為蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(多為蔵)。
△	一九一一	明治44	12/21	名古屋御園座	(小春治兵衛)	紙屋内(越路)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	京都開盛座	(心中天網島)	河庄内(組栄)。		
				(紙治)	紙治(米)。		
				(河庄内)	河庄内(米)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一二	明治45	7/18	浪花座	(心中天網島)	紙治内(越路=吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一二	大正1	11/1~	近松座	心中天網島上下	新地茶屋のだん(中鏝=*吉作、切大隅=*団平)、紙屋内のだん(中角=*新造、切伊達=*徳太郎)。 ※角書「紀の国屋小春/紙屋治兵衛」。 ※「好評につき二十四日迄日延」(『義太夫年表 大正篇』)。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(兵吉)、紙屋治兵衛(玉造)、女房おさん(小兵吉)。
△	一九一二	大正1	12/7カ	東京新富座	(心中天網島)	紙治(越路=吉兵衛)。 ※素浄瑠璃。 ※『演芸倶楽部』(大正2年1月号)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一三	大正2	京都 南座	(心中天網島)	紙治(春子=新左衛門)。	
				(紙治)	茶屋(大隅=団平)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	名古屋 末広座	(心中天網島)	河正内(組栄=広市)。	
					紙治内(伊達=徳太郎)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一三	大正2	御霊文楽座	心中天網島	紙屋内のだん(中古鞆=*清六、切越路=吉兵衛)。 ※竹本摂津大掾隠退披露興行。 ※「五十一日間。三十一日間大入。五月二十一日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	紀ノ国屋小春(玉七)、粉屋孫右工門(琴糸)、紙屋治兵衛(文三)、女房おさん(栄三)。
△	一九一三	大正2	東京 有楽座	(心中天網島)	紙治(綴、春子)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	京都 京都座	(心中天網島)	紙屋内(越路)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	名古屋 帝国座	(心中天網島)	紙治内(伊達=猿二郎)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	京都 明治座	(心中天網島)	紙治内(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	東京 新富座	(心中天網島)	こたつ(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	東京 明治座	(心中天網島)	紙治(勇=助三郎)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	名古屋 御園座	(心中天網島)	紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	近松座	心中天網島	北新地河庄茶屋のだん(中栄=*龍太郎、切弥=*八助)、紙屋内のだん(中組栄=*龍市、切春子=*新左工門)。 ※角書「小春ノ治兵衛」。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(兵吉)、紙屋治兵衛(玉蔵)、女房おさん(小兵吉)。
△	一九一四	大正3	京都 岩神座	(心中天網島)	紙治(淀)。 ※大阪文楽座、綴太夫・団六ほか。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一四	大正3	京都 南座	(心中天網島)	紙治(南部)。	
				(紙 治)	河庄(伊達)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	名古屋 御園座	(小春治兵衛)	紙屋(南部=広作)。 ※竹本越路大夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	東京 新富座	(心中天網島)	こたつ(伊達=仙系)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	名古屋 末広座	(心中天網島)	紙屋内(米=富治)。 ※竹本錦太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	東京 有楽座	(心中天網島)	紙治(米)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	名古屋 御園座	(心中天網島)	紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	松の座	(心中天網島)	河庄(栄)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九一五	大正4	御霊文楽座	心中天網島	河庄のだん(中 鏝、切 伊達=吉三郎)、紙屋内のだん(中 源=*勝市、越路=吉兵衛)。 ※「二十八日間 五月十八日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「松竹さんになつてから二回目の「河庄」で、この時から、従来は格子が上手にあつたのを廃めて、歌舞伎のやうに下手に造り替へました。」(『吉田栄三自伝』)。	紀伊国屋小春(文五郎)、兄孫右三門(文三)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉蔵)。
△	一九一五	大正4	京都 南座	(心中天網島)	紙治(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路大夫一座。三代竹本越路大夫紋下披露。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	浪花座	(心中天網島)	紙治(越路=清六)。 ※「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋 御園座	(心中天網島)	紙屋内(越路=吉兵衛)。 ※越路大夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	東京 新富座	(心中天網島)	こたつ(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一五	大正4	12/16	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙屋内(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一六	大正5	7/7	京都 南座	(小春治兵衛) 紙屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	7/13	浪花座	(心中天網島) 河庄(米)。	
			7/16		(紙治) 炬燵(錦)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/3	京都 明治座	(心中天網島) 川庄(米)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/12	名古屋 末広座	(紙治) 茶屋場(米=龍虎)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	12/3	東京 歌舞伎座	(小春治兵衛) 紙屋内(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	1/14	堀江座	(紙治) 茶屋(弥)。 ※豊沢新之助改新三郎名披露会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一七	大正6	3/15~	御霊文楽座	心中天の網嶋 北新地河庄のだん(中源=*勝市、切津=*友治郎)、紙治内より大和屋のだん(中古鞆=*清六、切越路=吉兵衛)、道行名残りの橋づくしのだん(南部・源・淀・越見・常子=*寛治郎・他)。 ※角書「近松門左エ門翁が／原作をその俣に／人形も享保時代の／風俗を写して」。 ※「二十五日間 四月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「心中天網島は一代の文豪近松門左エ門翁が晩年の傑作にて金玉の名文として知られ居るに拘らず声曲界にては天保以降曾て原作の俣全曲上演せられし事なく徒に補綴改竄せられたる三場のみ行はれ原作の妙致は後に失却せられんとする有様にて遺憾千万の儀に付今回は全然原作に遵ひ古曲を参酌して人形其他享保時代の風俗に拠りこの名曲の復興を期する次第に御座候間何卒一段の御同情を以て御最前御引立の程を奉希上候／竹本越路太夫」(番付口上)。 ※吉田栄三約1週間病気休演、紙屋治兵衛の代役は吉田玉次郎(『義太夫年表 大正篇』に拠る)。	紀伊國屋小春(文五郎)、粉屋孫右エ門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一七	大正6	5/1	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙屋内(英=広太郎)。 ※豊竹古鞠太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/8	京都 南座	(小春治兵衛) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/12	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙屋内(組栄=団二郎)。	
			7/14		河庄(組栄=団二郎)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7	地方公演 (九州)	(心中天網島) こたつ(越路)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九一七	大正6	11/23~	京都 竹豊座	心中天網嶋 紙屋内のだん(中大嶋=*鱗糸、切春子=*新左衛門)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※「十二月十七日迄」(『義太夫年表 大正篇』)。	小春(紋太郎)、孫右衛門(兵三)、紙屋治兵衛(玉松)、女房おさん(小兵吉)。
△	一九一七	大正6	12/1	東京 歌舞伎座	(天の網島) 上の巻 北新地(源、津)、中の巻 紙屋内(叶、越路)、下の巻 大和屋(越路)、名残橋づくし。 ※この「天の網島」は原作通り全部語る(『歌舞伎座百年史』)。	
			12/9		(紙治) 炬燵(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12/21	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/19	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。	
			7/21		(小春治兵衛) 茶屋場(叶)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/28	京都 南座	(心中天網島) 紙治内(越路)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	8/9	中座	(紙治) 炬燵(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	9/8	北劇場	(心中天網島) 紙治内(薫)。 ※文楽座大夫連による「涼み浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一八	大正7	11/10~	御霊文楽座	心中天網嶋 紙屋内のだん(中源=*勝市、切越路=吉兵衛)。 ※「十五日間 十一月二十四日打上 二十五日、六日は表方祝儀興行」(『義太夫年表 大正篇』)。	小春(玉七)、兄孫右衛門(文三)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一八	大正7	12/3	名古屋 千歳座	(心中天網島) 紙治(つばめ)。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/4	東京 歌舞伎座	(紙治) (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一九	大正8	4/20~	京都 竹豊座	心中天網嶋 ちよんがれのだん(三好)、紙治内のだん(時=*弥七)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※「祝三周年特別興行」(番付)。	小春(扇太郎)、紙屋治兵衛(新三郎)、女房おさん(小兵吉)。
	一九一九	大正8	6/20~	京都 竹豊座	心中天網嶋 新地河庄のだん(組栄改メ 越=*龍市)、道行名残の橋尽し(円・南登・松重・千嶋)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※組栄太夫改メ六代竹本越太夫襲名披露。	紀の国や小春(扇太郎)、粉屋孫右衛門(辰五郎)、兄孫右衛門(兵三)、紙屋治兵衛(小兵吉)。
△	一九一九	大正8	7/9	京都 南座	(小春治兵衛) 紙屋内(越路=吉兵衛)。	
			7/11		(心中天網島) 紙治(叶=叶)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	8/1~6	東京 新富座	(時雨の炬燵) (伊達)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	おさん(栄三)。
△	一九一九	大正8	8/22	浪花座	(心中天網島) 紙治(伊達=吉三郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	9/17	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙治(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	11/27	堀江演舞場	(紙治) 紙治の内。 ※村井松葉翁追福浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/5	東京 歌舞伎座	(紙治) 炬燵(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/23	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙治(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九二〇	大正9	6/9~	御霊文楽座	心中天網島 北新地河庄のだん(中 静=*芳之助/*燕四、切 越路=吉兵衛)、紙屋内のだん(中 駒、切 伊達=*吉三郎)、北新地裏町のだん(町=*友造)、道行連理の蜷川(小春-源・治兵衛-相生・源路・小富・津花=*勝市・他)。 ※「六月二十八日打上げ 二十九日もらい」(『義太夫年表 大正篇』)。	紀伊の國屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙治内の場孫右衛門(琴糸)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉蔵)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二〇	大正9	7/28	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内の段(越路=吉兵衛)。 ※越路一座。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二〇	大正9	8/6	京都 南座	(小春治兵衛) 紙屋内(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二〇	大正9	10/1~	京都 竹豊座	心中天網嶋 北新地河庄のだん(中 薫、切 春子=*新左衛門)、紙屋内のだん(中 春次=*喜代造、切 錦=*八助)、道行のだん(南登・松重・春若)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※「心中天網嶋河庄内のだんを相勤めよとの御言葉により初役乍ら懸命に勤め可申候間何卒悪しき所は幾重にも御指図の程願入候 竹本春子太夫」(番付口上)。 ※五世竹沢宗七旧蔵稽古本に、「大正九年拾月一日初日竹豊座興行/竹本春子大夫豊沢新左衛門両師の役/其節新左衛門師病氣ノためかわり役勤メル」と書入れあり。	紀の国屋小春(扇太郎)、兄孫右衛門(冠造)、紙屋治兵衛(玉松)、女房おさん(小兵吉)。
△	一九二一	大正10	7/9	京都 南座	(心中天網島) 河庄(弥=吉弥)。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二一	大正10	10/2~	御霊文楽座	心中天網島 北新地河庄のだん(中 鑓=*竹三郎、切 古靱=*清六)、紙屋内のだん(中 源=*勝市、切 南部=*寛治郎)、北新地裏町のだん(鶴尾=*友吉)、道行浮名の網島のだん(小春一島・治兵衛-源路・鏡・越登・辰=*徳太郎・*友造・*浅造・*友衛門・*喜代之助・*叶太郎)。 ※「二十二日間 十月二十三日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※10月21、22日豊竹古靱太夫休演、竹本鑓太夫代演(『義太夫年表 大正篇』に拠る)。 ※「今度のは「紙屋治兵衛」でなくいつか越路が試みた近松の「天網島」に「紙屋内の段」の中が賑やかに添へられたものである」(『義太夫年表 大正篇』抄録、「大阪毎日新聞」の評)。	紀の國屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(文三)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉蔵)。
△	一九二一	大正10	12/13	名古屋 末広座	(心中天網島) 紙屋内(伊達=吉三郎)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	小春(玉七)、治兵衛(玉治郎)、おさん(文五郎)。
△	一九二二	大正11	7/14	名古屋 末広座	(天網島) 河庄(相生)。	(不明)
7/20			(心中天網島) 紙屋内(つばめ)。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)		
△	一九二二	大正11	7/26	京都 中座	(心中天網島) 炬燵(越名=宗吉)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二二	大正11	8/2	浪花座	(天網島) 河庄(相生=友之助)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/10	京都南座	(心中天網島) 河庄(古靱=新左衛門)。	
		8/13	紙屋内(つばめ=清二郎)。 ※文楽座引越し、津太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
	一九二二	大正11	11/19~ 12/3	御霊文楽座	心中天網島 紙屋内のだん(中 鑊、切 伊達=*吉三郎)。 ※「中狂言は「心中天網島」と番付にはあるが、半二の「心中紙屋治兵衛」で紙屋内の段(『義太夫年表 大正篇』抄録、「大阪毎日新聞」の評)。	紀伊國屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉七)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉蔵)。
△	一九二二	大正11	12/9	東京新富座	(心中天網島) 河庄(古靱=新左衛門)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二三	大正12	8/1	浪花座	(心中天網島) 紙屋内(島=猿太郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九二三	大正12	11/5~	京都新京極文楽座	心中天網島 紙屋内のだん(つばめ=八助、鑊=新左衛門)。 ※中座改メ新京極文楽座開場興行。	紀の国や小春(紋太郎)、粉屋孫右衛門(當次郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(小兵吉)。
	一九二三	大正12	11/10~	御霊文楽座	心中天の網島 河内屋より道行迄 河内屋のだん(中 静=*団六、切 津=*友治郎)、蜷川のだん(町・和泉・綾・亀久・浜子=*錦糸・*吉作・*友平)。 ※角書「紙屋治兵衛/紀ノ國屋小春」。 ※外題語り「近松門左衛門翁の原作を其俣」。 ※「尚当月は近松門左衛門翁の式百年祭に因み其遺徳を偲び原作のまゝ切「心中天網島」河内やの段を一座連中いづれも懸命に相勤め…」(番付口上)。原作其俣を謳っているが、人形役割には原作に登場しない伝海坊(吉田玉松)が含まれている。 ※「十八日間 二十七日打上 二十八日もらい」(『義太夫年表 大正篇』)。	紀ノ國や小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(文三)、紙屋治兵衛(玉蔵)。
△	一九二四	大正13	2/28	竹本伊達太夫宅	(心中天網島) こたつ(淀路)。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二四	大正13	10/24~	御霊文楽座	心中天網島 紙屋内のだん(中 町、切 土佐=*吉三郎)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※「二十四日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	紀ノ國屋小春(扇太郎)、粉屋孫右衛門(冠四)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉蔵)。
	一九二五	大正14	3/18~	京都新京極文楽座	心中天網島 紙屋内のだん(中 三好=寛市、切 駒=才治)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀ノ國屋小春(扇太郎)、粉屋孫右衛門(冠造)、紙屋治兵衛(紋太郎)、女房おさん(栄三)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二五	大正14	中座	(心中天網島)	河庄(相生=猿太郎)。	
					紙治(鏝=新左衛門)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
		8/14				
		8/17				
	一九二五	大正14	中座	心中紙屋治兵衛	北新地のだん(中 静、切 古靱=清六)。 ※「二十日間」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「十月興行は「文楽座紹介興行」の意味で道頓堀へ乗出し、人形入で中座に開演する事と決定した。文楽座がかく普通劇場へ引越乗出での興行は、本場の大阪では始めてと破天荒の企てである」(『義太夫年表 大正篇』抄録、「大阪毎日新聞」の評)。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)。
△	一九二五	大正14	高知	(心中天網島)	河庄(土佐)。	
					紙屋(土佐)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
		11/30カ				
		12/6カ				
△	一九二六	大正15	竹本伊達太夫宅	(心中天網島)	紙治(伊達喜)。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	京都南座	(心中天網島)	河庄の段(古靱=清六)、紙治内の段(土佐=吉三郎)。 ※文楽座引越し、豊竹古靱太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	名古屋御園座	(心中天網島)	河庄の段(中 静、切 古靱=清六)、紙屋内の段(中 鏝、切 土佐=吉三郎)、道行の段(掛合)。 ※『御園座七十年史』、「名古屋新聞」(7月20日)に拠る。	(不明)
△	一九二六	大正15	徳島新富座	(心中天網島)	こたつ(駒=才治)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二六	大正15	東京歌舞伎座	心中天網島	北新地河庄の段(中 静=吉弥、切 古靱=清六)、紙屋内の段(中 鏝=新左衛門、切 土佐=吉三郎)、道行蜷川の段(鏡・越名・源路・播路・可美=綱右衛門・清次郎・新三郎・吉貞・団伊三・市之助)。	紀国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(小兵吉)。
	一九二六	大正15	御霊文楽座	天網嶋時雨炬燵	北新地河庄のだん(中 源、切 土佐=吉兵衛)、紙屋内のだん(中 静、切 古靱=清六)、道行連理の蜷川(和泉・越名・辰・弥生・源平)。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。「二十日間」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※11月29日、文楽座内から出火、全焼。御霊文楽座最後の興行となる。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房のおさん(小兵吉)。
△	一九二六	大正15	名古屋御園座	(心中天網島)	紙屋内の段(古靱=清六)。 ※『御園座七十年史』、「名古屋新聞」(12月15日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九二七	昭和2	3/1~23	弁天座	心中天網島	北の新地河庄の段（中 駒=才治、切 津=友治郎）、紙屋内の段（中 鑊=新左衛門、切 土佐=吉兵衛）。 ※竹本静太夫改め四代竹本大隅太夫襲名披露興行。 ※千穉楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。ただし、「大阪毎日新聞（大阪版）」（3月20日）、「大阪朝日新聞」（3月23日）によれば、23日は「大阪朝日新聞社後援 奥丹後大地震義損興行」で、配役は以下の通り。河庄（かけ合 中 駒、切 孫右衛門一津・治兵衛一大隅・太兵衛一富・善六一鏡・亭主一和泉・小春一土佐=友治郎）、紙屋内（かけ合 中 鑊、切 治兵衛一つばめ・おさん一越名・三五郎一島・おすゑ一綾・五左衛門一相生・小春一町=吉兵衛）。この日の人形役割は不明。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（政亀）。	
△	一九二七	昭和2	7/5~6	京都南座	心中天網島	北新地河庄の段（中 相生=友衛門、切 津=叶）、紙屋内の段（中 貴鳳=芳之助、切 土佐=吉兵衛）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』、人形は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	小春（文五郎）、治兵衛（栄三）。
			7/13~14	神戸八千代座	北新地河庄の段（中 相生=友衛門、切 津=叶）、紙屋内の段（中 鏡=綱右衛門、切 土佐=吉兵衛）。	紀ノ国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（政亀）。	
△			7/20	名古屋新守座	（心中天網島） 河庄の段（中 相生=友衛門、切 津=叶）、紙屋内の段（中 鏡=綱右衛門、切 土佐=吉兵衛）。 ※大阪文楽座巡業（7月1~23日、近畿・東海）の内。 ※「新愛知」（7月11~20日の記事、7月13~18・20日の広告）に拠る。		
△	一九二七	昭和2	8/27	東京歌舞伎座	（心中天網島） 紙屋（和泉=清二郎）。		
			8/31		河庄（和泉=清二郎）。 ※大阪文楽座義太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。		
△	一九二七	昭和2	12/11	東京宮戸座	（時雨の炬燵） （稲=猿喜知）。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。		
△	一九二七	昭和2	12/21	浪花座	（小春治兵衛） 紙屋内の段（駒=才治）。 ※若手素浄瑠璃。		
	一九二八	昭和3	1/2~8	京都南座	（心中天網島） 紙屋内の段（中 つばめ=勝市、切 古靱=清六）。	紀ノ国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（紋太郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（政亀）。	
△	一九二八	昭和3	7/1	金沢尾山倶楽部	（紙 治） （鳥=浅造）。 ※竹本土佐太夫一行巡業（7月1~13日、北陸）の内。素浄瑠璃。 ※「北国新聞」（6月28・30日・7月1・3~5日）に拠る。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二八	昭和3	7/12~16	東京 新橋演舞場	心中天網島	紙屋内の段（中 つばめ=勝市、切 古靱=清六）。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（兵十郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
△	一九二八	昭和3	7/17	神戸 八千代座	（心中天網島） 紙治内（土佐）。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」（7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告）に拠る。	
一九二八	昭和3	8/18	浪花座	心中天網島	紙屋内の段（島=浅造）。	
		8/23			河庄の段（相生=芳之助）。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
一九二八	昭和3	11/7~10	京都 南座	心中天網島	紙屋内の段（中 文字=勝平、切 土佐=吉兵衛）。	紀ノ国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（兵十郎）、紙屋治兵衛（政亀）、女房おさん（文五郎）。
一九二八	昭和3	12/16~20	東京 新橋演舞場	心中天の網島	紙屋内の段（中 相生=芳之助、切 土佐=吉三郎改め 吉兵衛）。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（兵十郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
一九二九	昭和4	1/5~7	神戸 八千代座	心中天網島	北新地河庄の段（中 つばめ=勝市、切 土佐=吉兵衛）、紙屋内の段（中 鏝=新左衛門、切 古靱=清六）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（政亀）。
一九二九	昭和4	1/19~20	名古屋 御園座	心中天網島	北新地河庄の段（中 つばめ=勝市、切 土佐=吉兵衛）、紙屋内の段（中 鏝=新左衛門、切 古靱=清六）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（政亀）。
△		1/22カ	岐阜 松竹座	（心中天網島）	炬燵（古靱）。 ※「大阪朝日新聞（岐阜版）」（1月22日）に拠る。	（不明）
△		1/25	豊橋 東雲座		北新地河庄の段、紙屋内の段（古靱）。 ※大阪文楽座巡業（1月15~25日、名古屋・岐阜・豊橋）の内。 ※「参陽新報」（1月20~25日の記事、1月22・24日の広告）、「新朝報」（1月16・20~25日の記事、1月22・24日の広告）、「豊橋新報」（1月16・19~20・22・24~25日の記事、1月23~24日の広告）、「豊橋日日新聞」（1月16・20・22~23・25日の記事、1月22・24日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九二九	昭和4	弁天座	心中天網島	北新地河庄の段（中 鏝=新左衛門、切 津=友次郎）。 ※千種楽は「大阪朝日新聞」（3月17日）に拠る。	紀国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）。
△	一九二九	昭和4	4/20	豊橋 東雲座	（心中天網島） 紙屋内の段（越名=友衛門）。 ※大阪文楽座巡業（4月16~22日、東海）の内。大阪文楽座浄瑠璃若手花形大一座。4月18日豊橋・東雲座で同公演あり。 ※「参陽日報」（4月14~20日）、「新朝報」（4月14~15・17・20日）、「豊橋新報」（4月14・16~20日の記事、4月16日の広告）、「豊橋日日新聞」（4月14~20日の記事、4月16日の広告）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	4/26	東京 三越ホール	(心中天網島) 河庄(和国=猿三郎)。 ※第5回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第304号、『浄瑠璃雑誌』第279号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	6/23	天王寺河堀口 武藤氏旧宅	(心中天網島) 紙治(敷島=新造)。 ※春陽会発会式。 ※『浄瑠璃雑誌』第281号に拠る。	
	一九二九	昭和4	7/6~9	東京 新橋演舞場	心中天網島 紙屋内の段(切 鑿=新左衛門)。	小春(紋十郎)、紙屋治兵衛(政亀)、女房 おさん(文五郎)。
△	一九二九	昭和4	7/29	東京 三越ホール	(心中天網島) 紙治内(和国=桑造)。 ※第8回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第306号、『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	9/10	名古屋 新守座	(心中天網島) 紙治内の段(つばめ=勝市)。 ※大阪文楽座巡業(9月7~23日、名古屋・神戸・高松)の内。素浄瑠璃。 ※「新愛知」(9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	9/18	岡崎 松栄座	(心中天網島) 炬燵(広=寛若)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(9月18~21日、愛知・10月1~3日、京都)の内。9月20日安城座(三味線不明)、9月21日知立座(三味線不明)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	10/18~22	東京 桜田本郷町飛行協会大講堂	(心中天網島) 炬燵(さの=猿平)。 ※人形座。 ※『浄瑠璃世界』第308号に拠る。	
	一九二九	昭和4	12/5~7	東京 新橋演舞場	心中天網島 河庄の段(中和泉=綱右衛門、切 津=友次郎)。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)。
△	一九三〇	昭和5	1/26	実業会館	(心中天網島) 河庄(若雛=竜二郎)。 ※第7回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第288号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	4/21	東京 三越ホール	(心中天網島) 紙屋(巖=吉作)。 ※第16回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8/17	東京 東京劇場	心中天網島 河庄の段(相生=猿系)。	
			8/21・25		紙屋内の段(古靱=清六)。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三〇	昭和5	11/25~26	京都 華頂会館	(心中天網島) 河庄。 ※「大阪朝日新聞(京都版)」(11月25日)に拠る。	(不明)
	一九三一	昭和6	1/1~25	四ツ橋文楽座	心中天網島 北新地河庄の段(中文字=勝平、切 津=友次郎)、紙屋内の段(中駒=重造、切 古靱=清六)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉治郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(紋十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三一	昭和6	4/4	広島 置屋町演舞場 〈竹本座〉	(心中天網島) 紙治内(昇之助=力松)。 ※竹本角太夫一行巡業(4月3~12日、広島・博多)の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	6/28	東京 市 村 座	(心中天網島) 河庄(出雲=芳太郎)。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/18~20	東京 明 治 座	心中天の網島 北新地河庄の段(中 南部=吉弥、切 土佐=吉兵衛)。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)。
	一九三一	昭和6	9/1~7	東京 帝国 劇場	心 中 天 網 島 紙屋内の段(切 鑊=新左衛門)。 ※プログラムの解説欄では外題を「天網島時雨炬燵」とし、「この炬燵の段は半二の改作のほうであります」とある。	紀の国屋小春(文作)、紙屋治兵衛(玉松)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三一	昭和6	10/09	地方公演 (九州・中 国・四国)	(心中天網島) 紙治内(南部=広助)。 ※竹本土佐太夫一行巡業。10月9日広島・寿座、12日松山・国伎座、17日徳島・稲荷座での公演を含む。 ※「中国新聞」(10月2・9~10日の記事、10月2・6・8日の広告)、「海南新聞」(10月8・13日)、「大阪朝日新聞(徳島版)」(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15~17日)、「浄瑠璃雑誌」第306号に拠る。	
	一九三一	昭和6	12/8~10	東京 明 治 座	心 中 天 網 島 紙屋内の段(中 鏡=広助、切 土佐=吉兵衛)、道行の段(小春一文・治兵衛-辰・播路・駒尾/叶美・津磨/佐久/宮・越名/好/土佐子=綱右衛門・団伊三・吉貞/清若・仙作/広二・市松/小綱・綱延/綱治)。	紀ノ国屋小春(紋十郎)、松ノ屋孫右衛門(玉七)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
	一九三二	昭和7	3/1~21	四ツ橋文楽座	心 中 天 網 島 北新地河庄の段(中 鑊=新左衛門、切 津=綱造)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)。
	一九三二	昭和7	5/4~6	東京 東京 劇場	心 中 天 網 島 北新地河庄の段(中 相生=清二郎、切 津=綱造)。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)。
△	一九三二	昭和7	5/7	名古屋 御 園 座	(心中天網島) 紙屋内の段(駒=重造)。 ※竹本鑊太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九三二	昭和7	6/19	北新地演舞場	(心中天網島) 紙屋内(駒=広助)。 ※花菱会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号では、北陽演舞場とする。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
	一九三二	昭和7	10/27	東京 東京 劇場	心 中 天 網 島 紙治内の段(土佐=吉兵衛)。 ※素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三二	昭和7	11/1~20	四ツ橋文楽座	心中天網島	紙屋内の段（中 呂=叶//つばめ=仙糸、切 土佐=吉兵衛）。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※千穉楽は『文楽興行昭和篇』書入れに拠る。	紀伊国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（政亀）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。	
△	一九三二	昭和7	四ツ橋文楽座	(心中天網島)	紙屋内の段（中 文、奥 駒）。 ※京都雁金会（文楽後援団体）。人形は栄三、文五郎、玉次郎、紋十郎他の出演（『文楽興行記録昭和篇』）。 ※四ツ橋文楽座プログラム（昭和8年1月）に拠る。		
△	一九三二	昭和7	広島 寿 座	(心中天網島)	炬燵（呂=綱右衛門）。	(不明)	
		河庄（つばめ=芳之助）。 ※「中国新聞」（11月27日の記事、11月23・30日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。			(不明)		
		12/13		長崎 みなみ座	(紙屋治兵衛)	河庄内の段。 ※大阪文楽座若手連巡業（12月1日～、広島・九州）の内。 ※「長崎日日新聞」（12月6～13日）に拠る。	(不明)
△	一九三二	昭和7	東京 並木倶楽部	(心中天網島)	紙治内（津弥=扇之助）。 ※大日本義太夫因会吉例大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。		
△	一九三三	昭和8	2/3	松屋町鳳来館 〈竹本座〉	(心中天網島)	河庄（敷島）。 ※竹本座巡業（2月1～19日、大阪）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	(不明)
△	一九三三	昭和8	2/19	東京浅草 並木倶楽部	(心中天網島)	紙治（津弥=松四郎）。 ※第11回浄瑠璃講究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第321号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/22~23	神戸 松竹劇場	(心中天網島)	紙屋内の段（南部）。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」（7月20～23日の記事、7月22日の広告）に拠る。	(不明)
△	一九三三	昭和8	8/20	紀州田辺 常盤座	(天網島)	紙屋内（播路=広二）。 ※「紀伊新報」（8月12日）、『浄瑠璃雑誌』第326号に拠る。	
	一九三三	昭和8	8/21~23 8/24~25	京都 南座	心中天網島	北新地河庄の段（相生=清二郎）。	紀ノ国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（政亀）、紙屋治兵衛（栄三）。
				(心中天の網島)	紙屋内の段（南部=吉左）。 ※24～25日の配役は『松竹百年史』、「京都日出新聞」（8月23・24日）に拠る。	小春（扇太郎）、紙屋治兵衛（栄三）、おさん（政亀）。	
	一九三三	昭和8	10/1~	四ツ橋文楽座	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（中 相生=綱右衛門/友衛門/清二郎//呂=叶、切 津=綱造//古朝=清六）。	紀ノ国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）。
	一九三三	昭和8	12/13~15	東京 歌舞伎座	心中天網島	北新地河庄の段（切 鑊=新左衛門）、紙屋内の段（中 鏡=吉左、切 土佐=吉兵衛）。	紀ノ国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉次郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（小兵吉）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三三	昭和8	12/18	国民会館	(心中天網島) 炬燵(町=歌助)。 ※第1回花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第329号に拠る。	
	一九三四	昭和9	1/1~ 1/22~23	四ツ橋文楽座	心中天網島 紙屋内の段(中鏡=吉左、切土佐=吉兵衛)。 ※京都雁金会。役割は上に同じ。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三四	昭和9	2/14	東京三越ホール	(天網島) 炬燵(都=桑造)。 ※第37回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	7/27	満州大連検番ホール	(心中天網島) 紙治(佐=友太郎)。	
			8/3	満州奉天演芸館	紙治(佐)。 ※竹本叶太夫一行巡業(7月25日~8月15日)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	9/15	東京木村屋別館	(心中天網島) 紙治(都=桑造)。 ※鶴沢司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	10/01	東京電気倶楽部	(心中天網島) 紙治(前浪花=道之助、奥湊=猿平)。 ※第1回東京義太夫新興会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
	一九三五	昭和10	7/12~14	東京明治座	心中天網島 紙屋内の段(中相生=清二郎、切土佐=吉兵衛)。 ※角書「小春ノ治兵衛」。※竹本土佐太夫・野沢吉兵衛休演、竹本綴太夫・豊沢新左衛門が代演(『文楽興行記録昭和篇』)。	紀の国屋小春(扇太郎)、粉屋孫右衛門(玉七)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三五	昭和10	8/23	浪花座	(心中天網島) 河庄(つばめ=猿系)。	
			8/26		紙治内(駒=清二郎)。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」(8月21日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
	一九三五	昭和10	9/23~24	京都南座	心中天の網島 紙屋内の段(中相生=清二郎、切綴=新左衛門)。	紀ノ国屋小春(扇太郎)、粉屋孫右衛門(多三郎)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三五	昭和10	12/5	東京並木倶楽部	(心中天網島) 紙治内(巖=新次郎)。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	4/4~5	名古屋御園座	(心中天網島) 紙屋内(駒=清二郎)。 ※大阪文楽座巡業(4月2日~、東海)の内。 ※「新愛知」(3月26・28~29日・4月1~3・5・7日の記事、3月27・30~31日・4月1・6日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九三六	昭和11	6/26	東京 木村屋別館	(心中天網島)	紙治内(麗=新之助)。 ※第3回義太夫新興会。 ※『浄瑠璃雑誌』第350号に拠る。	
	一九三六	昭和11	7/31~8/2	東京 歌舞伎座	心中天網島	紙屋治兵衛内の段(中 源路=喜代之助、切 土佐=吉兵衛)。	紀国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(文五郎)。
	一九三六	昭和11	10/3~	四ツ橋文楽座	心中天網島	北新地河庄の段(粉屋孫右衛門一呂・江戸屋太兵衛一辰/陸路・五貫屋善六一隅栄/津の子・紀の国屋小春一伊達・河庄亭主一駒若・見物人一常子・土佐子/隅若・紙屋治兵衛一相生=友次郎)、紙屋内の段(中 源路=寛市、切 土佐=吉兵衛)。 ※角書「紀国屋小春/紙屋治兵衛」。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三七	昭和12	3/23~27	地方公演 (山陽・山陰)	(心中天網島)	紙治内(和泉=重造)。 ※竹本鏝太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/2	東京 飛行会館	(心中天網島)	紙治(近衛=団童)。 ※日本帝都義太夫因会春季公演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、『浄瑠璃時報』第179号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/17	飯田市 大松座 〈新義座〉	(心中天網島)	炬燵(南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(4月4~28日、東海・関東)の内。乙女人形入。4月21日名古屋・中座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	5/4	東京 帝国ホテル演芸場 〈新義座〉	(心中天網島)	紙屋(南部=勝平)。 ※「帝国ホテル演芸場にての公演直前、竹本南部太夫は盲腸炎を患って手術を受けたが、経過は良好で五月十三日退院」(『義太夫年表昭和篇』)。 ※『浄瑠璃時報』第182号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	6/1~末	地方公演 (関東・東北・北海道・上越・北陸・東海) 〈新義座〉	(心中天網島)	炬燵(南部=勝平)。 ※乙女人形入。 ※『浄瑠璃時報』第185号、『人形浄瑠璃』第3号に拠る。	
	一九三七	昭和12	6/5~7	東京 明治座	心中天網島	紙屋内の段(中 長尾=吉左、切 土佐=吉兵衛)。 ※六代竹本土佐太夫・七代野沢吉兵衛引退披露。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉市)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三七	昭和12	8/12	京都 朝日会館 〈新義座〉	時雨炬燵	紙屋内の段(南部=勝平)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※「京都日出新聞」(8月5日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三七	昭和12	10/5~7	京都 弥栄会館	(心中天網島) 紙屋内の段(鑊=新左衛門)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※文楽座松竹委任経営披露興行。 ※「京都日出新聞」(9月24~26日・10月3・5日)、「京都日日新聞」(9月29日・10月3日)、「大阪朝日新聞(京都版)」(10月5日)、『浄瑠璃時報』第192号に拠る。	紀国屋小春(紋十郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三七	昭和12	10/23	北陽演舞場 〈新義座〉	(天網島) 河庄(つばめ=猿糸)、紙屋内の段(南部=勝平)。 ※『浄瑠璃雑誌』第365号、『浄瑠璃時報』第193号、『太棹』第90号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	10/27	東京浅草 並木倶楽部	(天網島時雨炬燵) 小春/治兵衛紙屋内の段(稲=辰六)。 ※日本帝都義太夫因会慰問会。 ※『浄瑠璃雑誌』第365・366号、『浄瑠璃時報』第193・194号、『太棹』第90号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	11/17	大紙倶楽部 〈竹本座〉	(天網島) 河庄(栄=竜一)。 ※第1回昭和会。吉田光子人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第366号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	11/21	徳島 徳島温泉劇場 〈新義座〉	(小春治兵衛時雨炬燵) 紙屋内の段(南部)。 ※大阪新義座巡業(11月22日~12月1日、四国)の内。乙女人形入。 ※「徳島毎日新聞」(11月15・19~22日の記事、11月20日の広告)に拠る。	
△	一九三七	昭和12	12/7	東京 仁寿生命講堂 〈新義座〉	(時雨炬燵) (南部=勝平)。 ※『浄瑠璃雑誌』第366・367号、『浄瑠璃時報』第195号、『太棹』第91号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	12/10	名古屋針屋町 浪越演舞場 〈新義座〉	(心中天網島) 紙治内(南部)。 ※「名古屋新聞」(12月10日)、『浄瑠璃雑誌』第367号、『浄瑠璃時報』第197号に拠る。	
	一九三八	昭和13	1/2~11	北陽演舞場	天網島時雨炬燵 北新地河庄の段(切鑊=新左衛門//駒=清二郎)、紙屋内の段(中駒=清二郎//鑊=新左衛門、切古鞆=清六)。 ※角書「紀の国屋小春/紙屋治兵衛」。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三八	昭和13	2/9	東京 鈴木演芸場	(心中天網島) 紙治(巖=新造)。 ※第2回義太夫会。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、『太棹』第94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	3/10	(不明)	(心中天網島) 紙治(都=亀造)。 ※竹本都太夫独演会。 ※『太棹』第94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	3/15	東京 鈴木演芸場	(心中天網島) 紙治(里=美之助)。 ※第3回義太夫会。 ※『太棹』第94号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三八	昭和13	3/28	東京 歌舞伎座	(心中天網島) 北新地河庄の段(治兵衛一米・小春一巖・太兵衛一弥国・善六一巴・亭主一さくら・孫右衛門一津賀一前 新次郎、後 新造)。 ※竹本津賀大夫引退披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第368・369号、『太棹』第93・94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4/20	台湾 栄座 <新義座>	(天の網島時雨の炬燵) (南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(4月20日～、台湾)の内。桐竹門造指導乙女人形入。 ※「台湾日日新報」(4月17・19～20日の記事、4月20日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第369号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/15	東京浅草 並木倶楽部	(心中天網島) 紙治(稲=辰六)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第99号に拠る。	
	一九三九	昭和14	3/20～23	東京 明治座	天網島時雨炬燵 紙屋内の段(前 駒=清二郎、後 相生=叶//織=団六)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀国屋小春(紋十郎)、紙屋治兵衛(政亀)、女房おさん(小兵吉)。
	一九三九	昭和14	4/2～	四ツ橋文楽座	天網島時雨炬燵 紙屋内の段(前/後 相生=道八//呂=寛治郎)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉次郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九三九	昭和14	5/3	東京 日本橋倶楽部	(天網島時雨炬燵) 紙屋(都=亀造)。 ※南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号、『太棹』第103号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	5/23	名古屋 御園座	(心中天網島) 紙屋内(駒)。 ※「新愛知」(5月23日の記事と広告)、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	1/26	東京 日本橋倶楽部	(心中天網島) 紙治(浪花=猿平、駒登=扇之助)。 ※南北座初春公演。 ※『太棹』第111号に拠る。	小春(高瀬弦之丞)、治兵衛(国五郎)、おさん(池田三国)。
	一九四〇	昭和15	2/1～18	四ツ橋文楽座	天網島 北新地河庄の段(中 文字=新左衛門、切 津=友次郎)、ちよんがれの段(鑊=寛治郎)、紙屋内の段(切 古朝=清六)。 ※角書「紀国屋小春/紙屋治兵衛」。 ※『劇評』第12劇評集では、「北新地河庄の段・切」の三味線を清二郎とする。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	紀国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九四〇	昭和15	2/27	東京 電気倶楽部	(心中天網島) 紙屋(朝見=芳太郎)。 ※義太夫弥生会第1回。 ※『太棹』第112号に拠る。	
	一九四〇	昭和15	6/27～28	神戸 松竹劇場	天網島 河庄の段(中 大隅=広助、切 津=寛治郎)。 ※「紀の国屋小春/紙屋治兵衛」。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉蔵)、紙屋治兵衛(栄三)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四〇	昭和15	7/23~25	京都南座	天網島時雨炬燵 ちよんがれの段（織＝団六）、紙屋内の段（駒＝清二郎）。 ※「京都市出新聞」（7月14・18～20日、7月16・25日の広告）、「京都日日新聞」（7月23～24日）、『昭和の南座 資料編（上）』に拠る。	小春（紋十郎）、紙屋治兵衛（栄三）、おさん（文五郎）。
	一九四〇	昭和15	8/13~16	東京明治座	天網島時雨炬燵 紙屋内の段（中 駒若＝吉季、切 駒＝清二郎）。 ※角書「小春／治兵衛」。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（紋太郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（小兵吉）。
△	一九四一	昭和16	1/22	東京日本橋倶楽部	（心中天網島） 紙屋（近衛＝松四郎）。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	（不明）
△	一九四一	昭和16	6/18	東京国民新劇場	（心中天網島） 紙治。 ※南北座春季公演。 ※『太棹』第127号、「朝日新聞（東京版）」（6月18日）に拠る。	
	一九四一	昭和16	7/21~25	東京新橋演舞場	天網島時雨炬燵 紙屋内の段（前／後 相生＝吉五郎//呂＝仙糸）。 ※角書「小春／治兵衛」。	紀ノ国屋小春（紋十郎）、紙屋治兵衛（政亀）、女房おさん（小兵吉）。
△	一九四一	昭和16	9/23	東京浅草並木倶楽部	（天網島） 紙屋の段（卯＝松市郎）。 ※義太夫古曲発表会。 ※『太棹』第129号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	10/4	東京国民新劇場	（心中天網島） 紙屋（浪花＝猿平）。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	おさん（池田三国）。
	一九四一	昭和16	12/19~23	東京新橋演舞場	天網島 北の新地河庄の段（前 織＝団六、後 相生＝吉五郎）、紙屋内の段（中 長尾＝団伊三、切 古靱＝清六）。 ※角書「紀の国屋小春／紙屋治兵衛」。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（玉蔵）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
	一九四二	昭和17	1/1~25	四ツ橋文楽座	天網島時雨炬燵 紙屋内の段（役毎日替 前／後 呂＝仙糸//織＝団六）。 ※千種楽は「大阪毎日新聞」（1月23日の広告）に拠る	紀の国屋小春（紋十郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
△	一九四二	昭和17	5/21	東京雷門東橋亭	（心中天網島） 紙治（津弥）。 ※竹本津弥太夫独演会。 ※『太棹』第135号に拠る。	
	一九四二	昭和17	7/21~25	東京新橋演舞場	天網島時雨炬燵 紙屋内の段（前 呂＝仙糸//南部＝重造、後 伊達＝勝平）。 ※豊竹古靱太夫櫓下披露興行。 ※玉幸改メ吉田玉助襲名披露。	紀ノ国屋小春（紋十郎）、紙屋治兵衛（玉幸改め 玉助）、女房おさん（政亀）。
△	一九四二	昭和17	10/2	東京浅草並木倶楽部	（心中天網島） 河庄（巴＝扇之助）。 ※義太夫古曲発表会。 ※『浄瑠璃月報』第52号、『太棹』第138号、『浄瑠璃雑誌』第415号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	10/28	京都朝日会館	（心中天網島） 紙屋内の段（雛＝友花）。 ※国粋古典芸術鑑賞会主催、第13回秋季文楽浄瑠璃の夕。 ※『文楽芸術』第13号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四二	昭和17	12/6~10	東京 新橋演舞場	紙屋 治 兵 衛	北の新地河庄の段（前 相生=吉五郎//呂=仙系、切 大隅=清二郎）。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀の国屋小春（亀松）、粉屋孫右衛門（玉造）、紙屋治兵衛（栄三）。
△	一九四三	昭和18	東京浅草 並木倶楽部	(心中天網島)	紙治（稲=良造）。 ※大日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第144号、『浄瑠璃月報』第67号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	東京 すゞ本	(心中天網島)	紙治内（卯=紋四郎）。 ※義太夫錬成道場義太夫会。 ※『浄瑠璃月報』第77号、『太棹』第148号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	東京浅草 並木倶楽部	(心中天網島)	紙屋（卯=和孝）。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第149号、『浄瑠璃月報』第79号に拠る。	
	一九四三	昭和18	東京 新橋演舞場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 重=広助、後 伊達=喜左衛門）。	紀の国屋小春（紋十郎）、紙屋治兵衛（玉助）、女房おさん（役毎日替 亀松/光造）。
△	一九四四	昭和19	東京 寿々本	(心中天網島)	紙治（緑=猿若）。 ※義太夫特選会。 ※『浄瑠璃月報』第83号に拠る。	
	一九四四	昭和19	四ツ橋文楽座	紙屋 治 兵 衛	北新地河庄の段（中 重=広助、切 古靱=清六）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（門造）、紙屋治兵衛（栄三）。
	一九四四	昭和19	四ツ橋文楽座	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（南部=寛治郎//伊達=喜左衛門）。 ※桐竹政亀休演力。代役は吉田玉市（『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る）。	紀の国屋小春（栄三郎）、紙屋治兵衛（政亀）、女房おさん（亀松）。
△	一九四五	昭和20	京都 四条湖月亭	(心中天網島)	茶屋（古靱=仙系）。 内（古靱=仙系）。 ※武智鉄二等主催、断絃会。別演目の予定であったが、鶴沢清六が撥ダコをいため演奏不能につき、豊沢仙系の得意のものに変更。 ※『山城少掾聞書』に拠る。	
	一九四五	昭和20	朝日会館	心中天網島	北新地河庄の段（切 相生=吉五郎）、紙治内の段（切 呂=友衛門）。 ※第4回朝日新聞大阪厚生事業団主催公演、第4回復興文楽人形浄瑠璃。	小春（亀松）、孫右衛門（門造）、治兵衛（紋十郎）、おさん（光造）。
	一九四六	昭和21	四ツ橋文楽座	紙屋 治 兵 衛	北新地河庄の段（中 住=重造、切 古靱=清六）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉助）、紙屋治兵衛（紋十郎）。
	一九四六	昭和21	四ツ橋文楽座	紙屋 治 兵 衛	口三味線（古靱=清六）、茶屋場（浜=市治郎）。 ※第1回文楽座新進若手養成勉強会。	小春（紋司）、孫右衛門（紋昇）、治兵衛（栄三郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四六	昭和21	11/2~17	四ツ橋文楽座	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（中 相生=吉五郎、切 古靱=清六）。	紀ノ国屋小春（亀松）、粉屋孫右衛門（紋太郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（文五郎）。
		11/17			紙屋内の段（中 隅若=吉三郎、前 松=清二郎、後 雛=勝太郎）。 ※第2回文楽座若手向上会。	小春（紋之助）、孫右衛門（紋太郎）、治兵衛（栄三郎）、おさん（紋司）。
一九四七	昭和22	2/1~20	四ツ橋文楽座	天網島	天満紙店より大和屋の段まで（切 織=団六）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀の国屋小春」。 ※「近松門左衛門原作を其まゝに」（プログラム）。 ※西亭=舞台構成。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	紀の国屋小春（栄三郎）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（玉助）、女房おさん（紋十郎）。
△一九四七	昭和22	2/6	ラジオ放送	（心中天網島）	河庄（織、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（2月6日）に拠る。	
一九四七	昭和22	7/12~19	京都南座	心中天網島	北新地河庄の段（中 住=広助、切 山城少掾=清六）。 ※古靱太夫改メ豊竹山城少掾位受領披露興行。 ※豊竹山城少掾、ぞめき戻りから竹本浜太夫が代役。吉田玉助休演、紙屋治兵衛は左を遣っていた吉田玉男が1日代役、翌日桐竹門造休演、粉屋孫右衛門も1日代役。左は吉田玉市（『文楽興行記録昭和篇』書入れ、『吉田玉男文楽藝話』に拠る）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（門造）、紙屋治兵衛（玉助）。
一九四七	昭和22	11/8~28	四ツ橋文楽座	天網島時雨炬燵	ちよんがれの段（中 源=吉三郎／八造//浜=勝太郎／市治郎）、紙屋内の段（前 呂=松之輔、後 伊達=喜左衛門）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※初代鶴沢道八追善興行。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。 ※11月15日「紙治内の段」をラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（11月15日）に拠る）。	紀国屋小春（紋太郎）、兄孫右衛門（亀三）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（亀松）。
△一九四七	昭和22	11/15	ラジオ放送	（心中天網島）	紙治内の段（呂、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（11月15日）に拠る。	
一九四八	昭和23	5/25	広島福山公会堂	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 呂=松之輔）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※広島・愛媛巡業（5月23カ~30日）の内。	紀国屋小春（紋太郎）、紙屋治兵衛（光造）、女房おさん（亀松）。
△一九四八	昭和23	9/27	ラジオ放送	（心中天網島）	紙治内の段（呂、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月27日）に拠る。	
△一九四八	昭和23	12/5	東京芝美術会館	（心中天網島）	河庄（破三味線 山城少掾=清六、切 綱=弥七）、紙屋内（中 綱=弥七、切 山城少掾=清六）。 ※東京における山城会発会。 ※『幕間』（昭和24年1月号）、『芝居手帳』第4巻第1号（昭和24年1月）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四九	昭和24	3/21	ラジオ放送 〈因会〉	(心中天網島) 紙治内(山城少掾、他)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(3月21日)に拠る。	
	一九四九	昭和24	5/7~12	東京 有楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵 紙屋内の段(雛=広助、松=八造)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※豊竹山城少掾・吉田文五郎芸術院会員披露公演。 ※この演目の代わりに「忠臣蔵」を上演したとする異版プログラムあり。	紀の国や小春(紋次)、紙屋治兵衛(光造)、女房おさん(亀松)。
	一九四九	昭和24	8~9	地方公演 (東北・北海道) 〈因会〉	時雨の炬燵 紙屋内の段(前 相生=松之輔、後 綱=弥七)。 ※角書「小春/治兵衛」。	芸妓小春(紋司)、紙屋治兵衛(光造)、女房おさん(亀松)。
	一九四九	昭和24	10/1~6	東京 帝国劇場 〈因会〉	天網島時雨炬燵 紙屋内の段(相生=松之輔)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀ノ国屋小春(紋司)、紙屋治兵衛(光造)、女房おさん(亀松)。
△	一九四九	昭和24	10/9	宇治山田市 平和座 〈組合〉	(小春治兵衛) 紙屋内の段。 ※伊勢路巡業(7~9日)の内。 ※「夕刊三重」(10月8日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四九	昭和24	11/6	京都 祇園会館 〈組合〉	(心中天網島) 河庄。 ※故五代桐竹門造追福浄瑠璃大会。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	1/11	ラジオ放送 〈組合〉	(天網島) 紙治内の段(呂)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(1月11日)に拠る。	
	一九五〇	昭和25	1/12~14	神戸 湊川神社 〈組合〉	天の網島時雨の 炬燵 紙屋内の段(呂=寛治郎)。 ※文楽座主催第2回神戸自主公演。	小春(紋之助)、治兵衛(紋十郎)、おさん(紋太郎)。
	一九五〇	昭和25	3/4~8	東京 新橋演舞場 〈因会〉	心中紙屋治兵衛 北新地河庄の段(粉屋孫右衛門-山城少掾・紙屋治兵衛-相生・紀国屋小春-松・江戸屋太兵衛-浜・五貫屋善六-隅若・河庄亭主-相次・見物人-弘=豊之助改め 豊助)。 ※角書「紀國屋小春/紙屋治兵衛」。	紀國屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉市)、紙屋治兵衛(光造)。
△	一九五〇	昭和25	4/1~2	高知 堀詰座 〈組合〉	(心中天網島) 紙治内の段。 ※高知・北陸巡業(11日間)の内。 ※「高知新聞」(4月2日の記事、3月28日・4月2日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五〇	昭和25	10/5~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	心中天網島 北新地河庄の段(切 綱=弥七)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀の国屋小春(文五郎)、粉屋孫右衛門(玉市)、紙屋治兵衛(亀松)。
	一九五〇	昭和25	12/2~7	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島 口三味線の段(司=燕三)、北新地河庄の段(前 つばめ=市治郎、後 住=友衛門)、ちよんがれの段(七五三=叶太郎/吉三郎)、紙治内の段(前 呂改め 若=綱造、後 伊達=喜左衛門)。 ※呂太夫改め十代豊竹若太夫襲名披露。	紀ノ国屋小春(紋之助)、粉屋孫右衛門(茶屋=玉徳、紙屋=国秀)、紙屋治兵衛(紋十郎)、女房おさん(紋昇)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五一	昭和26	1/2~21	四ツ橋文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 綱=弥七、切 相生=松之輔）。 ※四ツ橋文楽座復興5周年記念。 ※桐竹紋司改め二代吉田玉五郎襲名披露。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。 ※野沢松之輔休演のため、豊沢広助が代演（『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る）。	紀の国屋小春（紋司改め 玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
一九五一	昭和26	1/14	西宮 日芸会館 〈三和会〉	心中天網島	紙屋内の段（前 つばめ=勝太郎、後 越名=錦糸）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※呂太夫改め十世豊竹若太夫襲名興行。	小春（紋之助）、治兵衛（紋十郎）、おさん（紋太郎）。
△	一九五一	昭和26	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	炬燵（相生、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（3月7日）に拠る。	
一九五一	昭和26	5/2~5	東京 新橋演舞場 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 綱=弥七）。	紀の国屋小春（紋司改め 玉五郎）、紙屋治兵衛（光造改め 栄三）、女房おさん（文五郎）。
一九五一	昭和26	8/22~26	京都 南座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 綱=弥七）。 ※8月26日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（8月26日）に拠る）。	紀の国屋小春（紋司改め 玉五郎）、紙屋治兵衛（亀松）、女房おさん（文五郎）。
△	一九五一	昭和26	ラジオ放送 〈因会〉	（天網島時雨炬燵）	紙屋（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（8月26日）に拠る。	
一九五一	昭和26	11/2~9	三越劇場 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵 通し狂言	口三味線の段（口 司=燕三）、新地河庄の段（切 住=勝太郎）、 ちよんがれの段（中 七五三=吉三郎）、紙屋内の段（前 伊達=喜左衛門、後 つばめ=市治郎）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。	紀ノ国屋小春（紋之助）、粉屋孫右衛門（河庄=玉徳、紙屋=国秀）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（ちよんがれ=紋之丞、紙屋内=勘十郎）。
△	一九五一	昭和26	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（12月19日）に拠る。	
一九五二	昭和27	7/14~19	東京 新橋演舞場 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（切 綱=弥七）。 ※14~19日まで日延べ（「東京新聞」（7月16日、7月11日の広告）に拠る）。	小春（玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）。
一九五二	昭和27	9/2~11	中座 〈因会〉	天網島	紙屋内より大和屋の段まで（切 綱=弥七）。 ※角書「紙屋治兵衛ノ紀の国屋小春」。 ※近松門左衛門原作（プログラム）。 ※9月21日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月21日）に拠る）。	紀の国屋小春（文雀）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（玉五郎）。
△	一九五二	昭和27	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	（綱=弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月21日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五二	昭和27	12/2~7	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島	河庄の段（治兵衛一源・小春一古住・孫右衛門一住・亭主+見物一伊達路・善六一呂賀・太兵衛一松島=燕三）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※近松門左衛門生誕三百年祭記念。	紀の国屋小春（紋之助）、粉屋孫右衛門（辰五郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）。
一九五二	昭和27	12/3~7	東京 新橋演舞場 〈因会〉	心中天網島	紙屋内より大和屋まで（切綱=弥七）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀伊国屋小春」。 ※近松門左衛門原作（プログラム）。	紀伊国屋小春（文雀）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（玉五郎）。
一九五三	昭和28	6/1~7	四ツ橋文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	紀之国屋小春（文雀）、紙屋治兵衛（亀松）、女房おさん（玉五郎）。
一九五三	昭和28	6/16~21	東京 新橋演舞場 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 相生=松之輔、後 松=清六）。	紀国家小春（玉男）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（玉五郎）。
一九五三	昭和28	8/21~30	中座 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（切綱=弥七）。	小春（玉五郎）、孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）。
一九五三	昭和28	12/8~13	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵	紙治内の段（前 伊達=喜左衛門、後 つばめ=燕三）。	紀の国屋小春（紋之助）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
一九五三	昭和28	12/23~27	東京 新橋演舞場 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（中 南部=清八、切綱=弥七）。	紀の国屋小春（文五郎）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）。
一九五四	昭和29	3/9~12	京都 宮川町歌舞練場 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵	紙治内の段（前 源=叶太郎、後 つばめ=燕三）。 ※八代野沢吉兵衛・鶴沢友衛門追善公演。	紀ノ国屋小春（紋之助）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
△一九五四	昭和29	5/27	明石市 明石市市民会館 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 綱=弥七、後 松=清六）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※「神戸新聞（明美版）」（5月26日の記事、5月23日の広告）に拠る。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
一九五四	昭和29	5/28~30	神戸 繊維会館 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 綱=弥七、後 松=清六）。 ※角書「小春／治兵衛」。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
一九五四	昭和29	6/6~10	東京 新橋演舞場 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 松=清六、後 宮改め 和佐=八造）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※宮太夫改め五代竹本和佐太夫襲名披露。	紀国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（亀松）。
一九五四	昭和29	7/1~6	京都 南座 〈因会〉	天網島 通し狂言	北新地河庄の段（切綱=弥七）、紙屋内の段（前 松=清六、宮改め 和佐=広助）。 ※宮太夫改め五代竹本和佐太夫襲名披露。	紀の国や小春（玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉助）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五四	昭和29	7/13~15	名古屋 御園座 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（切 綱=弥七）。	紀の国屋小春（玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉助）、紙屋治兵衛（栄三）。
				天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 松=清六、宮改め 和佐=広助）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※宮太夫改め五代竹本和佐太夫襲名披露。	
一九五四	昭和29	7/16	名古屋 御園座 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（綱=弥七）。 ※四ツ橋文楽座人形浄瑠璃鑑賞の会。	紀の国屋小春（前=文五郎、後=玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉助）、紙屋治兵衛（栄三）。
△一九五四	昭和29	7/19	浜松 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（切 綱=弥七）。	紀の国屋小春（玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉助）、紙屋治兵衛（栄三）。
				天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 松=清六、宮改め 和佐=広助）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※宮太夫改め五代竹本和佐太夫襲名披露。 ※7月20日浜松市二俣で同公演あり。 ※『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	
一九五四	昭和29	8/1~	地方公演 （東海・東北・北海道） 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 綱=弥七、奥 伊達=八造）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。	紀の国や小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
△一九五四	昭和29	9/8	ラジオ放送 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（松=清六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月8日）に拠る。	
一九五四	昭和29	11/2~23	四ツ橋文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 松=清六、後 雛=吉三郎//和佐=錦糸）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※千種楽は『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（栄三）。
一九五四	昭和29	11/25	大槻能楽堂 〈合同〉	心中天網島	河庄の段（つばめ=喜左衛門）。 ※第9回文部省芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。	
一九五四	昭和29	11/28	東京 東横ホール 〈合同〉	心中天網島	河庄の段（つばめ=喜左衛門）。 ※東横芸能祭・第9回文部省芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。	
一九五五	昭和30	1/29	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵	河庄内の段（つばめ=喜左衛門）。 ※第61回三越名人会。	
一九五五	昭和30	2/9~13	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵	紙治内の段（つばめ=喜左衛門）。 ※第2回若手勉強会。	小春（紋寿）、治兵衛（紋七）、おさん（紋二郎）。
△一九五五	昭和30	3/16	ラジオ放送 〈因会〉	（天網島時雨炬燵）	紙屋内の段（雛）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（3月16日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五五	昭和30	3/30	ラジオ放送 〈三和会〉	(心中天の網島) ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(3月30日)に拠る。	
	一九五五	昭和30	4/1~3	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	心中天網島 河庄の段(前 古住=勝太郎、後 つばめ=喜左衛門)。	紀の国屋小春(紋之助)、粉屋孫右衛門(勘十郎)、紙屋治兵衛(紋十郎)。
△	一九五五	昭和30	4/12	ラジオ放送 〈因会〉	(天網島時雨炬燵) ちょんがれの段(静=吉三郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(4月12日)に拠る。	
	一九五五	昭和30	6/10~18	東京 三越劇場 〈三和会〉	心中天網島 口三味線の段(古住=仙二郎)、河庄の段(前 司=燕三、後 つばめ=喜左衛門)。 ※豊竹司太夫休演、「河庄」一段を豊竹つばめ太夫が代演(『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る)。	小春(紋之助)、孫右衛門(勘十郎)、治兵衛(紋十郎)。
	一九五五	昭和30	6/19	神奈川 鶴見区公会堂 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵 紙屋内の段(つばめ=喜左衛門)。 ※関東・東北巡業の内。 ※横浜開港97年記念。	紀国屋小春(紋二郎)、紙屋治兵衛(紋十郎)、女房おさん(紋之助)。
	一九五五	昭和30	7/1~4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵 紙屋内の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	紀国屋小春(玉昇)、紙屋治兵衛(玉男)、女房おさん(栄三)。
	一九五五	昭和30	9/15~18	神戸 仏教会館 〈三和会〉	心中天網島時雨炬燵 紙屋内の段(前 つばめ=喜左衛門、後 源=叶太郎)。	小春(紋之助)、治兵衛(紋十郎)、女房おさん(勘十郎)。
	一九五五	昭和30	10/31	大手前会館 〈両派〉	天網島時雨炬燵 ちょんがれの段(静=吉三郎)、紙屋内の段(前 松=清六、後 伊達=八造)。 ※芸術祭文楽合同公演。	紀国屋小春(玉五郎)、粉屋孫右衛門(兵次)、紙屋治兵衛(玉男)、女房おさん(栄三)。
△	一九五五	昭和30	11/9	ラジオ放送 〈因会〉	(天網島時雨炬燵) (伊達=吉三郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(11月9日)に拠る。	
	一九五五	昭和30	11/10~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	心中天網島 北新地河庄の段(切 綱=弥七)、紙屋内の段(前 松=清六、後 伊達=八造)。 ※角書「紙屋治兵衛/紀の国屋小春」。 ※四ツ橋文楽座訣別興行。	紀の国屋小春(河庄=文五郎、紙屋=玉五郎)、粉屋孫右衛門(玉市)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(亀松)。
	一九五五	昭和30	11/13~17	三越劇場 〈三和会〉	天網島時雨炬燵 紙治内の段(切 若=綱造)。	紀ノ国屋小春(紋二郎)、紙屋治兵衛(紋十郎)、女房おさん(勘十郎)。
	一九五五	昭和30	11/26~29	東京 新橋演舞場 〈因会〉	天網島時雨炬燵 紙屋内の段(切 綱=弥七)。	紀の国屋小春(玉五郎)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(文五郎)。
△	一九五五	昭和30	11/28	東京 ビデオホール	(心中天網島) 紙治。 ※素浄瑠璃。 ※近松講座、講演と実演。 ※「東京新聞」(11月26日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	12/1~8	東京 三越劇場 〈三和会〉	天網島時雨炬燵	紙治内の段（切 若＝綱造）。	小春（紋二郎）、治兵衛（紋十郎）、おさん（勘十郎）。
△一九五六	昭和31	2/18	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	大和屋（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月18日）に拠る。	
一九五六	昭和31	3/11	福岡 大博劇場 〈三和会〉	天網島時雨炬燵	紙治内の段（前 つばめ＝喜左衛門、切 住＝勝太郎）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※地方公演（中国・九州・東海）の内。	小春（紋二郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
一九五六	昭和31	9/2~26	道頓堀文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 伊達＝藤蔵、後 松＝清六）。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（文五郎）。
一九五六	昭和31	10/20	東京 三越劇場 〈三和会〉	天網島時雨炬燵	紙治内の段（つばめ＝勝太郎）。 ※第82回三越名人会。	
一九五六	昭和31	10/29	東京 歌舞伎座 〈合同〉	心中天網島	大和屋の段（綱＝弥七）。 ※第2回国家指定芸能特別鑑賞会。 ※11月22日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月22日）に拠る）。	
△一九五六	昭和31	11/6	横浜 神奈川県立音楽堂 〈三和会〉	（天網島時雨炬燵）	紙治内の段。 ※東海道巡業（11月4日～、6日間）の内。 ※「神奈川新聞」（10月28日）、「朝日新聞（神奈川版）」（10月23日・11月4日）に拠る。	（不明）
△一九五六	昭和31	11/18	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	（松＝清六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月18日）に拠る。	
一九五七	昭和32	1/19~24	三越劇場 〈三和会〉	天網島	口三味線の段（古住＝燕三）、河庄の段（前 つばめ＝喜左衛門、後 住＝勝太郎）、ちよんがれの段（源＝叶太郎）、紙屋内の段（若＝綱造）。 ※豊竹古住太夫休演、豊竹小松太夫代演（国立文楽劇場所蔵チラシ類に拠る）。	紀の国屋小春（紋之助）、粉屋孫右衛門（辰五郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
△一九五七	昭和32	2/2~3	京都 祇園歌舞練場 〈三和会〉	（心中天網島）	道行。 ※ジョシュア・ローガン監督映画『サヨナラ』のロケ。 ※「毎日新聞（大阪版）」（1月12・30日）に拠る。	
一九五七	昭和32	4/28	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校 〈三和会〉	小春治兵衛 天網島時雨炬燵	治兵衛内の段（切 つばめ＝勝太郎）。	紀ノ国屋小春（紋之助）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
一九五七	昭和32	7/4~21	道頓堀文楽座 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（松＝清六）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀の国屋小春」。	紀の国屋小春（文五郎事 難波掾）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）。
一九五七	昭和32	7/26~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。豊澤三平五十年祭。	紀の国屋小春（東太郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（玉五郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五八	昭和33	1/24~29	京都南座 〈因会〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（松＝清六）。	紀の国屋小春（亀松）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）。
△一九五八	昭和33	3/15	ラジオ放送 〈因会〉	（天網島時雨炬燵）	紙治（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月15日）に拠る。	
一九五八	昭和33	5/23~24	神戸神戸新聞会館 〈三和会〉	心中天網島	口三味線の段（中 小松＝勝平）、河庄の段（前 源＝叶太郎、後 つばめ＝喜左衛門）、ちよんがれの段（中 古住＝市治郎）、紙屋治兵衛内の段（切 若＝燕三）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※三和会自立10周年記念公演。	紀ノ国屋小春（紋之助）、兄孫右衛門（辰五郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（勘十郎）。
△一九五八	昭和33	6/13	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	河庄の段（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月13日）に拠る。	
△一九五八	昭和33	12/21	ラジオ放送 〈三和会〉	（心中天網島）	新地河庄の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月21日）に拠る。	
一九五九	昭和34	1/27~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
一九五九	昭和34	2/3~7	東京三越劇場 〈三和会〉	心中紙屋治兵衛 時雨炬燵	河庄の段（前 古住＝燕三、切 源＝叶太郎）。 紙屋内の段（切 若＝勝太郎）、道行橋づくしより大長寺まで（小春＝つばめ・治兵衛＝源・ツレ 小松・古住＝喜左衛門・叶太郎・燕三・勝平）。 ※角書「小春／治兵衛」。 ※近松門左衛門三百年記念。	小春（紋之助）、孫右衛門（辰五郎）、治兵衛（紋十郎）。 小春（紋二郎）、治兵衛（紙屋＝紋十郎）、道行＝勘十郎）、おさん（勘十郎）。
一九五九	昭和34	2/27	横浜神奈川県立音楽堂 〈三和会〉	小春治兵衛 天網島時雨炬燵	紙屋内の段。 ※地方公演（東京方面）の内。	（不明）
一九五九	昭和34	6/13~15	名古屋御園座 〈合同〉	心中紙屋治兵衛	北新地河庄の段（前 松＝清六、後 つばめ＝喜左衛門）。 ※豊竹山城少掾引退披露興行。	女郎小春（玉五郎）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（紋十郎）。
一九五九	昭和34	7/1~12	道頓堀文楽座 〈因会〉	心中天網島	北新地河庄の段（切 綱＝弥七）、紙屋内の段（前 松＝吉三郎、後 土佐＝藤蔵）。 ※角書「紙屋治兵衛／紀の国屋小春」。	紀の国屋小春（河庄＝文五郎事 難波掾、紙屋＝玉五郎）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
一九五九	昭和34	7/17~30	地方公演（東京都付近） 〈三和会〉	天網島時雨炬燵	紙治内の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「小春／治兵衛」。	小春（紋之助改め 清十郎）、治兵衛（紋十郎）、おさん（勘十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五九	昭和34	7/19~20	道頓堀文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（亀松）。
一九五九	昭和34	8/2~5	京都南座 〈合同〉	心中天網島	北新地河庄の段（切綱=弥七）、紙屋内の段（前土佐=藤蔵、後松=吉三郎）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。	紀の国屋小春（河庄前=文五郎事 難波掾、河庄後・紙屋=玉五郎）、兄孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
一九五九	昭和34	11/13~16	東京新橋演舞場 〈合同〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前若=勝太郎、後松=清六）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※吉田難波掾文化功労賞受賞記念興行。	小春（清十郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（栄三）。
△一九六〇	昭和35	5/22	ラジオ放送 〈因会〉	心中天網島時雨炬燵	紙屋内の段（松=清六）。 ※鶴澤清六追悼。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（5月22日）に拠る。	
一九六〇	昭和35	6/19	足利市興国化学講堂 〈三和会〉	小春治兵衛 天網島時雨炬燵	紙屋治兵衛内の段（若=勝太郎）。	小春（清十郎）、治兵衛（紋十郎）、おさん（勘十郎）。
一九六〇	昭和35	8/13~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切綱=弥七）、道行名残りの橋尽し（小春-南部・治兵衛-織の=吉三郎・徳太郎ノ錦糸・団六・団二郎・藤二郎）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。 ※榎茂都陸平=振付（「道行名残りの橋尽し」）。	紀国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（前=文五郎事 難波掾、後=玉男）。
一九六〇	昭和35	12/24~27	東京新橋演舞場 〈合同〉	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前つばめ=喜左衛門、後土佐=藤蔵）、道行名残りの橋づくし（小春-南部・治兵衛-文字=吉三郎・錦糸・市治郎・勝平・藤二郎）。 ※角書「小春ノ治兵衛」。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（前=難波掾、後=玉男）。
一九六一	昭和36	4/28	毎日ホール 〈因会〉	心中天網島	下の巻 大和屋の段（綱=弥七）。 ※国家指定芸能特別鑑賞会。	
一九六二	昭和37	1/26~2/4	道頓堀文楽座 〈因会〉	心中天網島 通し狂言	口三味線の段（大隅=徳太郎ノ錦糸）、河庄の段（粉屋孫右衛門-相生・紀の国屋小春-土佐・紙屋治兵衛-春子・河庄亭主-大隅・江戸屋太兵衛-十九・五貫屋善六-伊達路・見物人-綱子・見物人-相子=藤蔵）、天満紙店より大和屋の段（中織の=吉三郎、切綱=弥七）。 ※角書「紀の国屋小春ノ紙屋治兵衛」。 ※吉田文五郎休演のため、紀の国屋小春を吉田玉五郎が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。 ※「今月の文楽座では近松の『天網島』の全編をほとんど原作に近く上演した。しかもその上の巻の『河庄』では端場の『口三味線』の段、中の巻の『紙屋内』でも同じく端場の『ちよんがれ』の段といった後世の改作によるくだりをもあわせ加えている」（「毎日新聞（大阪版）」2月4日）。	紀の国屋小春（玉五郎、河庄の中のみ=文五郎事 難波掾）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六二	昭和37	10/18	神戸 国際会館大 ホール 〈三和会〉	心中天網島	道行橋づくし（小春＝つばめ・治兵衛＝文字・村人＝小松＝喜左衛門・勝太郎・勝平・叶太郎）。 ※神戸勤労者音楽協議会。	小春（簗助）、紙屋治兵衛（勘十郎）。
△	一九六三	昭和38	ラジオ放送 〈因会〉	（心中天網島）	（綱＝弥七）。 ※「毎日新聞（大阪版）」（2月21日）に拠る。	
△	一九六三	昭和38	道頓堀文楽座 〈因会〉	心中天網島	河庄の段。 ※文楽素人人形浄瑠璃公演会。素義会に人形参加。	小春（文雀）、孫右衛門（玉昇）、治兵衛（栄三）。
△	一九六四	昭和39	ラジオ放送	（天網島時雨炬燵）	紙治内の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月21日）に拠る。	
	一九六四	昭和39	朝日座	心中天網島	河庄の段（綱＝弥七）。 ※文五郎事 吉田難波掾追善興行。 ※竹本綱太夫病中のため、「河庄」は前半のみ、後半は豊竹つばめ太夫が代演（「毎日新聞（大阪版）」（3月20日）に拠る）。「産経新聞（大阪版）」（3月9日）は初日から休演とする。	紀の国屋小春（紋十郎）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（亀松／栄三）。
	一九六四	昭和39	地方公演 （中国・北九州）	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 土佐＝吉兵衛、後 つばめ＝喜左衛門）。	紀の国屋小春（簗助）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（亀松）。
	一九六四	昭和39	京都 祇園会館	心中天網島	口三味線の段（文字＝徳太郎）、河庄の段（綱＝弥七）、紙屋内の段（春子＝松之輔）。	紀の国屋小春（河庄＝紋十郎、紙屋＝玉男）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
	一九六四	昭和39	名古屋 愛知文化講堂	心中天網島	口三味線の段（文字＝徳太郎）、河庄の段（綱＝弥七）、紙屋内の段（春子＝松之輔）。	紀の国屋小春（栄三）、粉屋孫右衛門（玉市）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（玉男）。
△	一九六四	昭和39	神戸 神戸海員会館	（心中天網島）	紙屋内の段（土佐＝吉兵衛）。 ※国連協会主催公演。 ※文楽協会資料、『昭和39年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	紀の国屋小春（玉五郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
	一九六四	昭和39	地方公演 （北陸・北海道・東北・長野）	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（前 春子＝松之輔、後 文字＝徳太郎）。 ※9月4日富山市・県民会館のマチネーでは小春を吉田文雀が勤める。	紀の国屋小春（清十郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（玉五郎）。
	一九六六	昭和41	東京 三越劇場	時雨の炬燵	紙屋内の段（春子＝松之輔）。 ※角書「小春／治兵衛」。	紀国屋小春（清十郎）、紙屋治兵衛（栄三）、女房おさん（亀松）。
△	一九六六	昭和41	ラジオ放送	（心中天網島）	（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月26日）に拠る。	
	一九六六	昭和41	地方公演 （東海道・関東）	天網島時雨炬燵	ちよんがれの段（大隅＝徳太郎）、紙屋内の段（前 土佐＝重造、後 源＝叶太郎）。	紀国屋小春（簗助）、粉屋孫右衛門（作十郎）、紙屋治兵衛（紋十郎）、女房おさん（玉男）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九六六	昭和41	9/3~18	朝日座	心中天網島	口三味線の段（伊達路=団六）、北新地河庄の段（切つばめ=吉兵衛）、天満紙屋内の段（若=勝太郎、切春子=松之輔）、道行名残りの橋尽し（小春=南部・治兵衛=織=錦糸・勝平・団二郎・清治・勝之輔）。 ※角書「紀の国屋小春／紙屋治兵衛」。 ※榎茂都陸平=振付（「道行名残りの橋尽し」）。 ※野沢喜左衛門休演のため、野沢吉兵衛が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	紀の国屋小春（河庄～紙屋=亀松、道行=簗助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（河庄～紙屋=栄三、道行=清十郎）、女房おさん（玉五郎）。	
△	一九六六	昭和41	ラジオ放送	（心中天網島）	（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（9月10日）に拠る。		
一九六六	昭和41	11/13~27	東京国立劇場小劇場	心中天網島	北新地河庄の段（切つばめ改め越路=喜左衛門）、天満紙屋内の段（大隅=叶太郎、春子=重造）、大和屋の段（織=燕三）、道行名残りの橋尽し（小春=土佐・治兵衛=織・相子=吉兵衛・団六・勝平・団二郎・清治・勝之輔）。 ※国立劇場開場記念公演。 ※「（野沢喜左衛門は）四世越路大夫襲名披露の「河庄」の前半を少し弾いただけであとは吉兵衛が代演した」（山田庄一『上方芸能今昔がたり』P191）。 ※12月11日「河庄の段」をテレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月11日）に拠る）。	紀の国屋小春（河庄=紋十郎、大和屋～道行=簗助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（河庄～大和屋=栄三、道行=清十郎）、女房おさん（亀松）。	
△	一九六七	昭和42	ラジオ放送	（天網島時雨炬燵）	（越路=喜左衛門）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月3日）に拠る。		
△	一九六七	昭和42	2/16~19	朝日座	（心中天網島）	北新地河庄の段（越路=喜左衛門）、天満紙屋内の段（大隅=叶太郎、春子=燕三）、大和屋の段（綱=弥七）、道行名残りの橋尽し（小春=南部・治兵衛=織=吉兵衛・団六・団二郎・勝之輔）。 ※榎茂都陸平=振付（「道行名残りの橋尽し」）。 ※竹本綱太夫17日から休演のため、竹本織太夫が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。 ※大阪労音公演。 ※文楽協会資料、『昭和41年度人形浄瑠璃因協会年報』、『吉田文雀ノート』に拠る）。	紀国屋小春（河庄=紋十郎、大和屋～道行=簗助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（河庄～大和屋=栄三、道行=清十郎）、女房おさん（亀松）。
△	一九六七	昭和42	10/14	ラジオ放送	（心中天網島）	河庄の段（越路）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月14日）に拠る。	
一九六七	昭和42	11/29	朝日座	天の網島時雨炬燵	紙治内の段。 ※日本素人浄瑠璃会主催人形浄瑠璃大会。素義会に人形参加。	（不明）	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六八	昭和43	1/18	ラジオ放送	(天網島時雨炬燵) 紙治内の段(春子=勝太郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月18日)に拠る。	
△	一九六八	昭和43	7/21	ラジオ放送	(心中天網島) 河庄の段(綱=弥七)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(7月21日)に拠る。	
△	一九六八	昭和43	8/8	ラジオ放送	(心中天網島) (織)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(8月8日)に拠る。	
	一九六八	昭和43	9/29~10/13	朝日座	心中天網島	北新地河庄の段(伊達路=団六、相生=重造)、天満紙屋内の段(呂=叶太郎、春子=勝太郎、南部=松之輔)。 紀の国屋小春(玉五郎)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(紋十郎)、女房おさん(亀松)。
	一九六八	昭和43	11/23~24	名古屋中日劇場	心中天網島	北新地河庄の段(伊達路=団六、相生=重造)、天満紙屋内の段(十九=叶太郎、春子=勝太郎、織=徳太郎)。 紀の国屋小春(河庄=紋十郎、紙屋=清十郎)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(亀松)、女房おさん(玉五郎)。
	一九六八	昭和43	11/29~12/14	地方公演(中国・九州)	心中天網島	紙屋内の段(春子=勝太郎)。 ※文楽渡欧・明治百年記念。 紀の国屋小春(文昇)、紙屋治兵衛(栄三)、女房おさん(玉五郎)。
△	一九六九	昭和44	1/9	ラジオ放送	(心中天網島) 大和屋の段(弥七)。 ※竹本綱大夫をしのぶ。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月9日)に拠る。	
△	一九六九	昭和44	1/14	ラジオ放送	(心中天網島) 北新地河庄の段(中 相子、切 相生=重造)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月14日)に拠る。	
△	一九六九	昭和44	6/6	京都ヤサカ会館	(心中天網島) 北新地河庄の段(伊達路=勝平、文字=燕三)。 ※マチネー公演。 ※文楽協会資料に拠る。	紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(栄三)。
	一九六九	昭和44	6/6~8	京都ヤサカ会館	心中天網島	北新地河庄の段(伊達路=勝平、越路=喜左衛門)。 紀の国屋小春(紋十郎)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(栄三)。
	一九六九	昭和44	9/2	大阪府忠岡町公民館	心中天網島	口三味線の段(小松=徳太郎)、北新地河庄の段(越路=喜左衛門)。 ※府民劇場、文楽鑑賞会。9月3日門真市立公民館・羽曳野市市民会館で同公演あり(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る)。 紀の国屋小春(玉五郎)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(栄三)。
△	一九七一	昭和46	2/21	ラジオ放送	(心中天網島) (文字=燕三)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月21日)に拠る。	
△	一九七一	昭和46	5/25	ラジオ放送	(心中天網島) 天満紙屋内の段(文字=燕三)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(5月25日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九七一	昭和46	6/27	ラジオ放送	(時雨の炬燵) 紙屋内の段(春子)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(6月27日)に拠る。	
	一九七一	昭和46	12/12	ナンバ高島屋ホール	心中天網島 大和屋の段(咲=弥七)。 ※角書「紙屋治兵衛/紀国屋小春」。 ※「近松門左衛門作」(プログラム)。 ※第1回(大阪)咲大夫の会。	
△	一九七一	昭和46	12/14	ラジオ放送	(心中天網島) (咲)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月14日)に拠る。	
△	一九七二	昭和47	2/6	ラジオ放送	(心中天網島) 河庄の段(相生翁=重造)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月6日)に拠る。	
	一九七二	昭和47	9/25	東京国立劇場小ホール	心中天網島 大和屋の段(咲=弥七)。 ※角書「紙屋治兵衛/紀国屋小春」。 ※近松門左衛門=作(プログラム)。 ※第3回咲大夫の会(東京)。素浄瑠璃。	
△	一九七二	昭和47	11/23	尼崎広濟寺	(心中天網島) 天満紙屋内の段。 ※大近松二百四十九年祭。録音テープ使用。 ※文楽協会資料に拠る。	紙屋治兵衛(玉昇)、女房おさん(文雀)。
	一九七三	昭和48	1/2~23	朝日座	心中天網島 北新地河庄の段(文字=吉兵衛)、天満紙屋内の段(小松=勝平、越路=喜左衛門)、道行名残りの橋尽し(小春=嶋・治兵衛=相生・貴/三輪=燕三・団二郎/清治・寛平)。 ※榎茂都陸平=振付(「道行名残りの橋尽し」)。 ※文楽協会設立10周年記念。三世吉田玉松襲名披露。 ※吉田栄三休演のため、紙屋治兵衛を吉田玉男が代演、女房おさんは豊松清十郎が代演(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、「読売新聞(大阪版)」(1月16日)に拠る)。竹本越路太夫5~9日休演のため、豊竹小松太夫が代演(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、「サンケイ新聞(大阪版)」(1月10日)、「読売新聞(大阪版)」(1月16日)に拠る)。 ※6月23日「天満紙屋の段」「道行名残りの橋尽し」をテレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(6月23日)、文楽協会資料、NHKクロニクルに拠る)。	紀の国屋小春(河庄~紙屋内=簗助、道行=文昇)、粉屋孫右衛門(勘十郎)、紙屋治兵衛(河庄~紙屋内=栄三、道行=紋弥改め玉松)、女房おさん(玉男)。
△	一九七三	昭和48	2/2	東京岩波ホール	(心中天網島・時雨炬燵) 紙屋内(文字=燕三)。 ※復元・復曲 武智鐵二・竹沢弥七。 ※岩波講座・義太夫節の会。 ※内山美樹子『文楽 二十世紀後期の輝き一劇評と文楽考』、「芸界新聞」(7月15日)、「毎日新聞(東京版)」(6月28日)、「読売新聞(東京版)」(6月17日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七三	昭和48	9/1	枚方市市民会館	心中天網島	北新地河庄の段（越路＝喜左衛門）、天満紙屋内より大和屋の段（中小松＝叶太郎、奥 織＝燕三）、道行名残りの橋尽し（小春＝嶋・治兵衛一相生・貴＝団六・団二郎・勝之輔・寛平）。 ※「近松門左衛門作 原作による」（プログラム）。 ※大阪府民劇場。近松没後二百五十年記念。	紀の国屋小春（河庄＝簗助、紙屋～道行＝文雀）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（河庄～大和屋＝玉男、道行＝玉松）、女房おさん（清十郎）。
		9/2	東大阪市立市民会館			
△	一九七三	昭和48	11/22	尼崎 尼崎市立文化会館	（心中天網島） 天満紙屋内の段（文字＝燕三）。 ※大近松三百五十年祭。 ※文楽協会資料、「朝日新聞（尼崎版）」（11月20日）に拠る。	治兵衛（清十郎）、おさん（亀松）。
△	一九七五	昭和50	2/2	ラジオ放送	（心中天網島） 大和屋（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月2日）、今尾哲也氏義太夫節関係カセットテープ（『近松研究所紀要』第13号）に拠る。	
△	一九七五	昭和50	2/26	大阪郵便貯金ホール	（心中天網島） 天満紙屋内の段（小松＝勝平）。 ※米朝好み浪花節巷談“なにがなにしてなんとやら”。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、「毎日新聞（大阪版）」（2月24日）に拠る。	
	一九七五	昭和50	11/14～16	京都 京都府立文化芸術会館	心中天網島 北新地河庄の段（織＝燕三）。	紀の国屋小春（文雀）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（玉男）。
△	一九七六	昭和51	7/11	ラジオ放送	（天網島時雨炬燵） （越路）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（7月11日）に拠る。	
△	一九七六	昭和51	10/11	ラジオ放送	（心中天網島） 河庄の段（織＝燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月11日）に拠る。	
△	一九七七	昭和52	2/23	東京 渋谷ジャン・ジャン	（心中天網島） 大和屋（織＝清治）。 ※「読売新聞（東京版）」（3月7日）に拠る。	
	一九七七	昭和52	9/10～24	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島 河庄の段（中小松＝勝平、切 越路＝清治）、紙屋内の段（中 嶋＝清介、奥 南部＝燕三）、大和屋の段（織＝団六）、道行名残りの橋尽し（小春＝小松・治兵衛一相生・津駒・津国・文字登＝道八・団二郎・清友・弥三郎／松也・燕太郎／八介）。	紀の国屋小春（簗助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文雀）。
	一九七七	昭和52	9/29～ 10/5	地方公演 （九州・四国）	天網島時雨炬燵 紙屋内の段（越路＝清治、嶋＝団六）。 ※文化庁移動芸術祭。	紀の国屋小春（文雀）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（簗助）。
	一九七八	昭和53	6/1～4	京都 京都府立文化芸術会館	心中天網島 北新地河庄の段（小松＝叶太郎、越路＝清治）、天満紙屋内の段（嶋＝勝太郎、織＝燕三、南部＝道八）。 ※野沢勝太郎休演のため、野沢勝平が代演。野沢勝平6月3～4日休演のため、野沢勝司が代演（文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る）。	紀の国屋小春（文雀）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（清十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七八	昭和53	11/30	大阪厚生年金 会館中ホール	心中天網島	河庄の段（越路＝清治）。 ※NHK第6回上方芸能鑑賞会。 ※昭和54年2月17日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（昭和54年2月17日）、文楽協会資料、NHKクロニクルに拠る）。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（玉男）。
一九七九	昭和54	4/14～30	朝日座	心中天網島	口三味線の段（嶋＝清介）、河庄の段（越路＝清治）、紙屋内の段（咲＝団二郎、文字＝錦糸）、大和屋の段（織＝燕三）。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（勘十郎）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文雀）。
△一九七九	昭和54	11/24	尼崎 近松記念館	（心中天網島）	紙屋内の段より おさん。 ※近松講座第6回。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	（不明）
一九八〇	昭和55	2/9～24	東京 国立劇場 小劇場	天網島時雨の炬 燵	紙屋内の段（中 小松＝叶太郎、切 越路＝清治、後 呂＝重造）。 ※近松半二＝作。 ※鶴沢重造休演のため、「紙屋内の段・奥」を野沢勝平が代演。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（文昇）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文雀）。
一九八〇	昭和55	11/13～30	地方公演 （北海道・東 北・関東・東 海）	心中天網島 （天網島時雨炬 燵）	紙屋内の段（文字＝勝平、十九＝団二郎）。	紀の国屋小春（紋寿）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（簀助）。
△一九八〇	昭和55	12/7	横浜 横浜市教育文 化ホール	（心中天網島）	河庄の段（越路＝清治）。 ※横浜文楽の会。素浄瑠璃。 ※『横浜文楽同好会会報』第19号、文楽協会資料に拠る。	
一九八一	昭和56	2/14～3/1	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島 通し狂言	北新地河庄の段（中 伊達路＝叶太郎、切 津＝道八）、天満紙屋内の段（口 相生＝燕太郎、奥 織＝燕三）、大和屋の段（咲＝清介）。 ※鶴沢燕太郎休演のため、「天満紙屋内の段・口」を鶴沢燕二郎が代演。桐竹勘十郎2月24日～3月1日休演のため、紙屋治兵衛を吉田玉松が代演。豊松清十郎2月22日休演のため、女房おさんを吉田文雀が代演。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（玉男）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（清十郎）。
一九八一	昭和56	10/29	大阪厚生年金 会館中ホール	心中天網島	北新地河庄の段（津＝団七）。 ※第9回NHK上方芸能鑑賞会「語りの世界」。 ※11月23日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月23日）、文楽協会資料、NHKクロニクルに拠る）。	紀の国屋小春（文雀）、粉屋孫右衛門（玉男）、紙屋治兵衛（簀助）。
一九八一	昭和56	10/31～ 11/3	京都 京都府立文化 芸術会館	心中天網島	口三味線の段（伊達路＝叶太郎）、北新地河庄の段（切 津＝団七）、天満紙屋内の段（中 相生＝清友、切 文字＝勝平）、大和屋の段（織＝燕三）。	紀の国屋小春（文雀）、粉屋孫右衛門（玉男）、紙屋治兵衛（簀助）、女房おさん（清十郎）。
一九八二	昭和57	5/11	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	大和屋の段（織＝燕三）。 ※第37回邦楽公演邦楽鑑賞会・義太夫節の会。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八三	昭和58	3/8~27	地方公演 (近畿・中 国・九州・東 海・関東)	心中天網島 (天網島時雨炬 燵)	紙屋内の段(切 文字=勝平、後 嶋=清介)。 ※豊松清十郎休演のため、紙屋治兵衛を吉田玉男が代演(『文楽』第2号に拠る)。	紀の国屋小春(紋寿)、紙屋治兵衛(清十郎)、女房おさん(文雀)。
一九八三	昭和58	10/14~30	朝日座	心中天網島	口三味線の段(嶋=勝司)、北新地河庄の段(切 越路=清治)、天満紙屋内の段(中 伊達路=清介、切 南部=錦糸、後 織=団六)、道行名残りの橋尽し(小春-呂・治兵衛-英・貴・南司・千歳=勝司・浅造・錦弥・燕二郎・清二郎)。 ※煤茂都陸平=振付(「道行名残りの橋尽し」)。	紀の国屋小春(口三味線~紙屋=簗助、道行=簗太郎)、粉屋孫右衛門(勘十郎)、紙屋治兵衛(河庄~紙屋=玉男、道行=玉女)、女房おさん(文雀)。
一九八四	昭和59	2/18~3/4	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	北新地河庄の段(中 伊達路=叶太郎、切 津=団七)、天満紙屋内の段(口 松香=燕二郎、奥 織=燕三)、大和屋の段(咲=勝司)。 ※竹本座開場300年記念。	紀の国屋小春(文雀)、粉屋孫右衛門(勘十郎)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(清十郎)。
△一九八四	昭和59	3/6	甲府 山梨県民文化 大ホール	心中天網島	北新地河庄の段(中 伊達路=叶太郎、切 津=団七)、天満紙屋内の段(口 松香=燕二郎、奥 織=燕三)、大和屋の段(咲=勝司)。 ※『文楽』第3号に拠る。	紀の国屋小春(文雀)、粉屋孫右衛門(勘十郎)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(清十郎)。
一九八五	昭和60	4/7~22	国立文楽劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(中 伊達路=勝平、切 越路=清治、後 小松=叶太郎)。 ※角書「小春/治兵衛」。 ※国立文楽劇場開場1周年記念。	紀の国屋小春(紋寿)、粉屋孫右衛門(玉幸)、紙屋治兵衛(文雀)、女房おさん(玉男)。
一九八六	昭和61	10/3~19	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段(切 津=団七)、天満紙屋内の段(口 相生=叶太郎、奥 織=燕三)、大和屋の段(呂=団六)、道行名残りの橋づくし(小春-嶋・治兵衛-緑・三輪・津梅・織美/文字栄=清友・八介・錦弥・団治・清吾)。 ※国立劇場開場20周年記念公演。 ※鶴沢叶太郎休演のため、「天満紙屋内の段・口」を鶴沢燕二郎が代演。	紀の国屋小春(一暢)、粉屋孫右衛門(文吾/玉幸)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(紋寿)。
一九八七	昭和62	2/7~22	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	北新地河庄の段(切 越路=清治)、天満紙屋内の段(口 緑=弥三郎、奥 伊達路=勝平)、大和屋の段(呂=富助)、道行名残りの橋づくし(小春-相生・治兵衛-津駒・南都・文字久・文字栄=清介・八介・団治・清二郎・清吾)。 ※鶴沢清二郎20・21日休演。吉田玉女11~14日休演のため、江戸屋太兵衛を桐竹紋寿が代演。桐竹亀松9日休演のため、おさんの母を桐竹一暢が代演。	紀の国屋小春(文雀)、粉屋孫右衛門(玉男)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(紋寿)。
一九八七	昭和62	10/4~18	地方公演 (北海道・東 北・新潟・関 東)	心中天網島	北新地河庄の段(伊達路=勝平改メ 喜左衛門)、天満紙屋内の段(十九=団七、津駒=八介)。	紀の国屋小春(紋寿)、粉屋孫右衛門(玉幸)、紙屋治兵衛(河庄=玉男、紙屋内=文吾)、女房おさん(簗助)。
一九八七	昭和62	10/21~26	地方公演 (三重・関 東)	心中天網島	北新地河庄の段(伊達路=勝平改メ 喜左衛門)、天満紙屋内の段(十九=団七、津駒=八介)。 ※近松門左衛門=原作(プログラム)。 ※文化庁移動芸術祭。	紀の国屋小春(紋寿)、粉屋孫右衛門(玉幸)、紙屋治兵衛(河庄=玉男、紙屋内=文吾)、女房おさん(簗助)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八八	昭和63	3/4~23・ 4/28	地方公演 (中国・九州・東海・中部・関東)	心中天網島	北新地河庄の段(十九=清介)、天満紙屋内の段(相生=勝平改メ喜左衛門、英=清吾)。	紀の国屋小春(一暢)、粉屋孫右衛門(玉幸)、紙屋治兵衛(河庄=玉男、紙屋内=文昇)、女房おさん(文雀)。
一九八九	平成1	2/10~19	東京国立劇場小劇場	天網島時雨炬燵	北新地河庄の段(切住=清治)、天満紙屋内の段(前嶋=清介、後呂=錦弥)、道行名残の橋尽し(治兵衛一英・小春一津駒・文字久・南都・文字栄=団七・八介・団治・浅造・清太郎)。 ※近松半二=作。榎茂都陸平=振付(「道行名残の橋尽し」)。	紀の国屋小春(文昇)、粉屋孫右衛門(文雀)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(玉男)。
一九九二	平成4	10/7~25	地方公演 (近畿・関東・中京・北陸)	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(前呂=錦弥、後相生=喜左衛門)。	紀の国屋小春(紋寿)、紙屋治兵衛(文吾)、女房おさん(簗助)。
△一九九二	平成4	10/31	尼崎園田地区会館	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(嶋=富助)。 ※近松ナウニ崎公演。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	紀の国屋小春(紋寿)、紙屋治兵衛(文吾)、女房おさん(文雀)。
△一九九二	平成4	11/1	近松寺・近松記念館	おさんと治兵衛 ~心中天網島・紙屋内の段より~	紙屋内の段(津駒=燕二郎)。 ※近松寺公演。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	治兵衛(和生)、おさん(文雀)。
一九九二	平成4	11/1	東京国立劇場小劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(嶋=富助)。 ※第4回文楽素浄瑠璃の会(第75回邦楽公演)。	
一九九二	平成4	11/7~25	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段(中英=錦弥、切住=燕三)、天満紙屋内の段(口貴=団治、奥織=富助)、大和屋の段(咲=団七)、道行名残りの橋づくし(小春一津駒・治兵衛一三輪・呂勢・始=弥三郎・清二郎・清太郎・団市)。	紀の国屋小春(簗助)、粉屋孫右衛門(文雀)、紙屋治兵衛(玉男)、女房おさん(文昇)。
一九九三	平成5	2/6~21	東京国立劇場小劇場	心中天網島	北新地河庄の段(切住=燕三)、天満紙屋内の段(口緑=団治、奥呂=団七)、大和屋の段(咲=清介)。	紀の国屋小春(文昇)、粉屋孫右衛門(文吾)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(文雀)。
一九九三	平成5	2/28~ 3/22	地方公演 (近畿・東海・関東・四国・九州)	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(前嶋=錦弥、後小松=団七)。	紀の国屋小春(文昇)、紙屋治兵衛(玉男)、女房おさん(文雀)。
一九九四	平成6	1/3~26	国立文楽劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段(中相生=錦弥、奥織=清治、後嶋=富助)。 ※角書「小春/治兵衛」。	紀の国屋小春(一暢)、粉屋孫右衛門(作十郎)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(玉男)。
一九九六	平成8	2/10~25	東京国立劇場小劇場	心中天網島	北新地河庄の段(切嶋=富助)、天満紙屋内の段(口英=宗助、奥伊達=団六)、大和屋の段(相生=燕二郎)、道行名残りの橋づくし(小春一津駒・治兵衛一貴・文字久・新・咲甫=清友・弥三郎・八介・清太郎・団市/清志郎)。	紀の国屋小春(紋寿)、粉屋孫右衛門(文雀)、紙屋治兵衛(簗助)、女房おさん(一暢)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九七	平成9	7/20～ 8/10	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 千歳＝燕二郎、切 住＝錦弥）、天満紙屋内の段（中 松香＝弥三郎、切 綱＝清二郎）、大和屋の段（咲＝清介）。 ※吉田勘市休演のため、大和屋伝兵衛を吉田簀一郎が全日程で勤める。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（文雀）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文昇）。
一九九八	平成10	5/30	国立文楽劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（嶋＝燕二郎）。 ※第2回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第18回邦楽公演）一語りの至芸義太夫節の真髓を聴く一。	
二〇〇〇	平成12	11/4～26	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 咲＝富助、切 住＝錦糸）、天満紙屋内の段（口 津駒＝弥三郎、切 十九＝清治）、大和屋の段（呂＝燕二郎）、道行名残りの橋づくし（小春＝三輪・治兵衛＝呂勢・新・つばさ／睦・呂茂／相子＝喜左衛門・八介・清太郎・団吾／喜一郎・団市・清志郎／清旭・清丈／龍聿）。 ※豊竹呂太夫9日歿のため、「大和屋の段」を竹本津駒太夫が代演。鶴沢八介休演。竹沢団市休演。 ※文化財保護法50年記念。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（紋寿）、粉屋孫右衛門（文吾）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文雀）。
二〇〇二	平成14	9/7～22	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 英＝喜左衛門、切 綱＝清二郎）、天満紙屋内の段（口 貴＝清太郎、奥 咲＝清介）、大和屋の段（津駒＝燕二郎）、道行名残りの橋づくし（小春＝呂勢・治兵衛＝咲甫・つばさ／睦／相子・文字栄＝団七・弥三郎・清旭・龍聿／清丈・龍爾）。 ※桐竹一暢休演のため、粉屋孫右衛門を7～14日まで吉田玉女が、15～22日まで吉田簀太郎が代演。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（一暢）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（文雀）。
二〇〇三	平成15	6/28～29	京都 南 座	心中天網島	口三味線の段（英＝喜左衛門）、北新地河庄の段（切 綱＝清二郎）、 「天網島時雨炬燵」より天満紙屋内の段（切 嶋＝清介、奥 千歳＝燕二郎）。 ※第9回文楽京都公演。	紀の国屋小春（簀助）、粉屋孫右衛門（文吾）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（紋寿）。
二〇〇五	平成17	1/3～25	国立文楽劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（中 咲＝燕二郎、切 嶋＝清介、後 千歳＝清治）。	紀の国屋小春（清之助）、粉屋孫右衛門（玉輝）、紙屋治兵衛（玉女）、女房おさん（文雀）。
二〇〇五	平成17	8/27～28	愛媛 内 子 座	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 嶋＝清介、奥 千歳＝清治）。 ※第9回内子座文楽。	紀の国屋小春（清之助）、紙屋治兵衛（文吾）、女房おさん（和生）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇六	平成18	2/11~26	東京 国立劇場 小劇場	天網島時雨炬燵	北新地河庄の段（中 伊達=宗助、切 住=錦糸）、天満紙屋内の段（切 嶋=清介、後 千歳=清治）、道行名残の橋尽し（小春=呂勢・治兵衛一始・芳穂・呂茂・靖=喜左衛門・喜一郎・清丈・龍聿・龍爾）。 ※榎茂都陸平=振付（「道行名残の橋尽し」）。 ※竹本住大夫文化功労者顕彰記念。 ※野沢喜左衛門休演。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（和生）、粉屋孫右衛門（玉女）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（簗助）。
二〇〇六	平成18	11/4~26	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 千歳=清治、切 住=錦糸）、天満紙屋内の段（口 文字久=喜一郎、奥 嶋=清介）、大和屋の段（咲=燕三）、道行名残りの橋づくし（小春=呂勢・治兵衛一新・睦・靖・咲寿=団七・団吾・清丈・龍爾・清公）。 ※国立劇場開場40周年記念。 ※豊竹嶋太夫休演のため、「天満紙屋内の段・奥」を竹本千歳太夫が代演。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（和生）、粉屋孫右衛門（文吾）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（簗助）。
二〇〇七	平成19	10/27	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	河庄の段（住=錦糸）。 ※第19回文楽素浄瑠璃の会（第140回邦楽公演）。	
二〇〇七	平成19	12/21~23	福岡 博多座	心中天網島	北新地河庄の段（切 綱=清二郎）、天網島時雨炬燵より天満紙屋内の段（切 嶋=宗助）。	紀の国屋小春（河庄=和生、炬燵=勘弥）、粉屋孫右衛門（玉也）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（簗助）。
二〇〇九	平成21	8/27	神戸 神戸新聞松方 ホール	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（切 嶋=富助）。	紀の国屋小春（清十郎）、紙屋治兵衛（玉女）、女房おさん（和生）。
二〇〇九	平成21	10/31~ 11/23	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 文字久=宗助、切 住=錦糸）、天満紙屋内の段（口 松香=喜一郎、切 綱=清二郎）、大和屋の段（切 咲=燕三）、道行名残りの橋づくし（小春=三輪・治兵衛一南都・始・つばさ・文字栄・靖=富助・清旭・清丈・龍爾・錦吾）。 ※竹本綱太夫5~7・11・18~22日休演のため、「天満紙屋内の段・切」を竹本津駒太夫が代演。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（簗助）、粉屋孫右衛門（玉女）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（紋寿）。
二〇一一	平成23	12/15	東京 紀尾井小ホー ル	心中天網島	紙屋治兵衛内より大和屋の段（咲=燕三）。 ※豊竹咲大夫の会。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一三	平成25	4/6~29	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 千歳=清介、切 嶋=富助）、天満紙屋内より大和屋の段（口 咲甫=喜一郎、切 咲=燕三）、道行名残の橋づくし（小春=文字久・治兵衛一睦・希・靖・文字栄=宗助・清志郎・清丈・清公・錦吾）。 ※文楽協会創立50周年記念。竹本義太夫300回忌。近松生誕360年。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（勘十郎）、粉屋孫右衛門（和生）、紙屋治兵衛（玉女）、女房おさん（清十郎）。
二〇一三	平成25	5/11~27	東京国立劇場小劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 千歳=清介、切 嶋=富助）、天満紙屋内より大和屋の段（口 始=清志郎、切 咲=燕三）、道行名残りの橋づくし（小春=文字久・治兵衛一睦・津国・咲寿・文字栄=宗助・団吾・清丈・寛太郎・清公）。 ※文楽協会創立50周年記念。竹本義太夫300回忌。近松生誕360年。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（勘十郎）、粉屋孫右衛門（文司）、紙屋治兵衛（玉女）、女房おさん（文雀）。
二〇一五	平成27	2/14~3/2	東京国立劇場小劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（中 咲甫=喜一郎、切 嶋=錦糸、奥 英=清介）。	紀の国屋小春（襄助）、粉屋孫右衛門（幸助/玉志）、紙屋治兵衛（玉女）、女房おさん（和生）。
二〇一五	平成27	4/4~26	国立文楽劇場	天網島時雨炬燵	紙屋内の段（中 咲甫=喜一郎、切 嶋=錦糸、奥 英=団七）。 ※吉田玉女改め二代吉田玉男襲名披露。	紀の国屋小春（清十郎）、粉屋孫右衛門（玉志）、紙屋治兵衛（玉女改め 玉男）、女房おさん（和生）。
二〇一五	平成27	9/26~10/12	地方公演（近畿・東海・東北・北海道・北陸・関東）	心中天網島	天満紙屋内の段（口 松香=団吾、奥 津駒=清介）、大和屋の段（切 咲=燕三）、道行名残りの橋づくし（小春=呂勢・治兵衛一芳穂・咲寿=宗助・清旭・寛太郎）。 ※「芳穂」の芳は異体字。	紀の国屋小春（勘十郎）、粉屋孫右衛門（玉志）、紙屋治兵衛（玉女改め 玉男）、女房おさん（清十郎）。
二〇一六	平成28	2/27~3/21	地方公演（中国・北陸・九州・関東・東海・近畿）	心中天網島	天満紙屋内の段（口 咲甫=喜一郎、奥 千歳=富助）、大和屋の段（切 咲=燕三）、道行名残りの橋づくし（小春=睦・治兵衛一靖・小住=錦糸・喜一郎・龍爾）。 ※近松門左衛門=作（プログラム）。	紀の国屋小春（勘弥）、粉屋孫右衛門（玉志）、紙屋治兵衛（玉女改め 玉男）、女房おさん（和生）。
二〇一六	平成28	7/3	山口ルネッサなごと	心中天網島	北新地河庄の段（靖=龍爾、千歳=富助）。 ※第4回なごと近松文楽。	紀の国屋小春（清十郎）、粉屋孫右衛門（玉男）、紙屋治兵衛（勘十郎）。
二〇一六	平成28	10/10	東京国立劇場小劇場	心中天網島	大和屋の段（咲=燕三）。 ※邦楽鑑賞会（第179回邦楽公演）。国立劇場開場50周年記念。	
二〇一九	令和1	9/7~23	東京国立劇場小劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 三輪=清志郎、奥 呂勢=清治）、天満紙屋内の段（口 津国=団吾、奥 呂=団七）、大和屋の段（切 咲=燕三）、道行名残の橋尽し（小春=芳穂・治兵衛一希・小住・亘・碩=宗助・清丈・寛太郎・錦吾・燕二郎）。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（和生）、粉屋孫右衛門（玉男）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（勘弥）。

「心中天網島」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一九	令和1	11/2~24	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 織＝清介、奥 呂勢＝清治）、天満紙屋内の段（口 希＝清旭、奥 呂＝団七）、大和屋の段（切 咲＝燕三）、道行名残りの橋づくし（小春＝三輪・治兵衛一睦・靖・小住・文字栄＝清友・団吾・友之助・清公・清允）。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。 ※豊竹呂勢太夫休演のため、「北新地河庄の段・奥」を竹本津駒太夫が代演。	紀の国屋小春（河庄前半・大和屋～道行＝簗二郎、河庄後半＝簗助）、粉屋孫右衛門（玉志／玉助）、紙屋治兵衛（勘十郎）、女房おさん（清十郎）。
二〇二〇	令和2	2/27	国立文楽劇場 小ホール	心中天網島	北新地河庄の段（織＝清旭）。 ※第14回若手素浄瑠璃の会（文楽劇場）。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。竹本織太夫＝賛助出演。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。	
二〇二〇	令和2	10/17	東京 国立劇場 小劇場	心中天網島	河庄の段（千歳＝富助）。 ※第31回文楽素浄瑠璃の会（第194回邦楽公演）。	
二〇二二	令和4	7/16~8/4	国立文楽劇場	心中天網島	北新地河庄の段（中 睦＝勝平、前 呂勢＝清治、後 織＝清志郎）、天満紙屋内の段（口 咲寿／小住＝寛太郎、切 鋳＝宗助）、大和屋の段（切 咲＝燕三）、道行名残りの橋づくし（小春＝三輪・治兵衛一睦・津国・咲寿・文字栄＝団七・団吾・清丈・清公・清方）。 ※近松門左衛門＝作（プログラム）。 ※「清丈」の丈は異体字。	紀の国屋小春（勘十郎）、粉屋孫右衛門（玉也）、紙屋治兵衛（玉男）、女房おさん（和生）。